第３章　学校施設の有効利活用に係る
モデル地区住民及び住民団体の意向

第３章　学校施設の有効利活用に係るモデル地区住民及び住民団体の意向

１　住民の意識・意向

(1) 調査の概要

ア　調査の目的

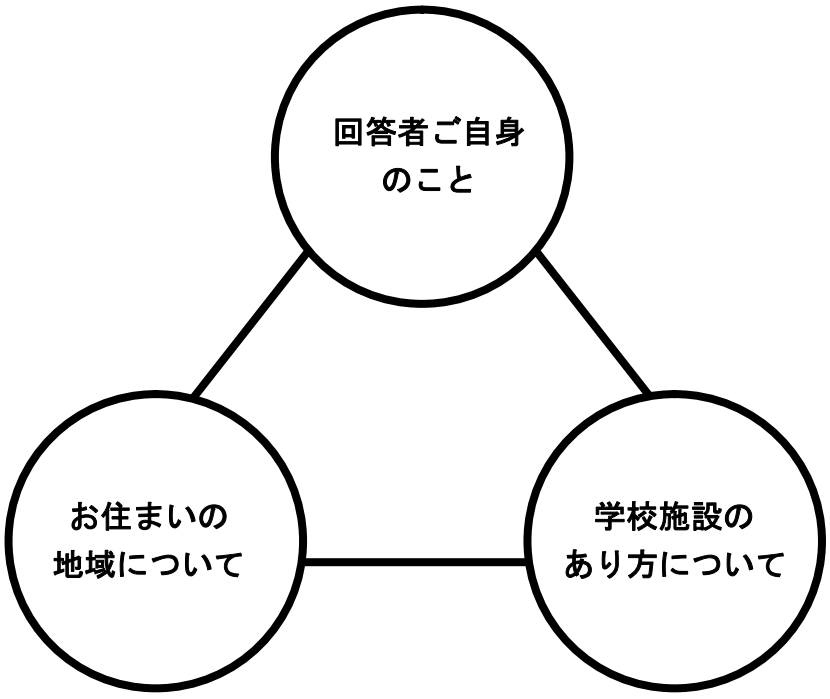
美馬市では、児童生徒数の減少に伴い、休・廃校が増加していくことが予想されており、学校施設の有効利活用が課題となってきている。このため美馬地区をモデル地区として、学校施設の利活用方法について、住民の意識・意向を把握するため、アンケート調査を実施した。

イ　調査の視点

本調査では休・廃校後の学校施設の利活用方法について意見を把握するに当たり、前提となる回答者自身について、日頃からの学校との関わりや、考え方を把握する。また、さまざまな利活用に対する意向を裏付ける目的から、回答者のお住まいの地域の満足度や評価を把握する。

これらを参考資料としながら、学校施設のあり方に対する意向を分析する。

図表３－１　調査の視点



ウ　集計の方法

グラフ中のｎは回答者の総数、クロス集計にある（　）内の数字は各項目の回答者数である。

小数点第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

クロス集計においては、表側の項目は無回答を除いているため、合計した値は全体に一致しないものがある。

図表３－２　調査概要

区分	摘要
調　査　名	美馬地区　学校施設の活用に関する住民アンケート調査
調 査 対 象	美馬市美馬地区在住で、20 歳以上の男女 2,000 名
調 査 方 法	メール便による配布・郵送回収
抽 出 方 法	住民基本台帳より無作為抽出。ただし同一世帯から複数名の抽出がないよう配慮。
調 査 期 間	平成 25 年 9 月 9 日～24 日（16 日間）
配 布 回 収	配布：2,000 票 回収：　856 票（回収率 42.8%）
主な質問項目	①お住まいの地区や、学校との関わりについて ②お住まいの地区の生活環境について ③学校施設の利活用に対する意向について ④性別や年齢等の基本属性

以下の標本誤差早見表は、無作為抽出によるアンケートの回答結果に含まれる誤差を計算したものである。

図表３－３　標本誤差早見表と算出方法

区分	10% （または 90%）	20% （または 80%）	30% （または 70%）	40% （または 60%）	50%
856	±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.1%
500	±2.5%	±3.4%	±3.9%	±4.1%	±4.2%
200	±4.1%	±5.5%	±6.3%	±6.7%	±6.8%
100	±5.8%	±7.8%	±8.9%	±9.5%	±9.7%
50	±8.3%	±11.0%	±12.7%	±13.5%	±13.8%

(2) 居住地区や学校との関係

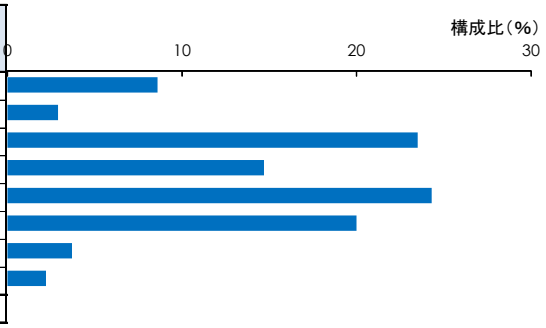
ア　居住地区

回答者の居住地区は「重清西小学校区」が最も多く 24.3%、次いで「郡里小学校区」が 23.5%、「重清東小学校区（ただし旧重清北小学校区を除く。以下同じ）」が 20.0%などの順となっている。

アンケート対象者を抽出した際の地区別人口割合と比較すると、郡里小学校区住民の回答割合がやや低いほかは、抽出時の割合とほぼ比例した構成比となっている。

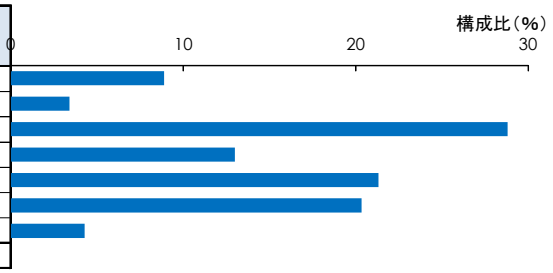
図表３－４　居住地区

項目	件数（人）	構成比（%）
1　芝坂小学校区（旧切久保小学校区を除く）	74	8.6
2　旧切久保小学校区	25	2.9
3　郡里小学校区	201	23.5
4　喜来小学校区	126	14.7
5　重清西小学校区	208	24.3
6　重清東小学校区（旧重清北小学校区を除く）	171	20.0
7　旧重清北小学校区	32	3.7
無回答	19	2.2
サンプル数	856	100.0



図表３－５　抽出時の地区別人口割合（参考）

項目	件数（人）	構成比（%）
1　芝坂小学校区	584	8.9
2　旧切久保小学校区	223	3.4
3　郡里小学校区	1,893	28.8
4　喜来小学校区	854	13.0
5　重清西小学校区	1,401	21.3
6　重清東小学校区	1,337	20.3
7　旧重清北小学校区	281	4.3
サンプル数	6,573	100.0



資料：美馬市「住民基本台帳」（平成 25 年８月現在）

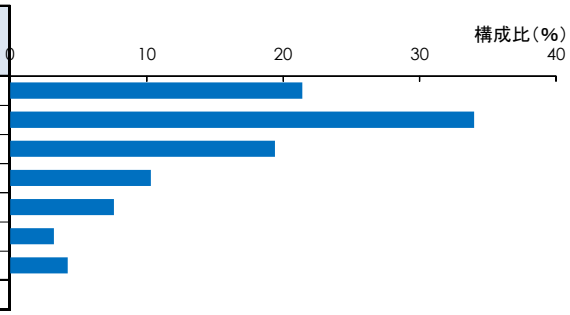
イ　自宅から小学校までの距離

自宅から小学校までの距離は「約 500m～１km未満」が最も多く 34.0%、次いで「約 500m未満」が 21.4%、「約１km～1.5 km未満」が 19.4%となっており、合わせると１km未満の中に回答者の 55.4%が含まれる。さらに「1.5 km未満」まで広げると回答者全体の 74.8%が含まれる。

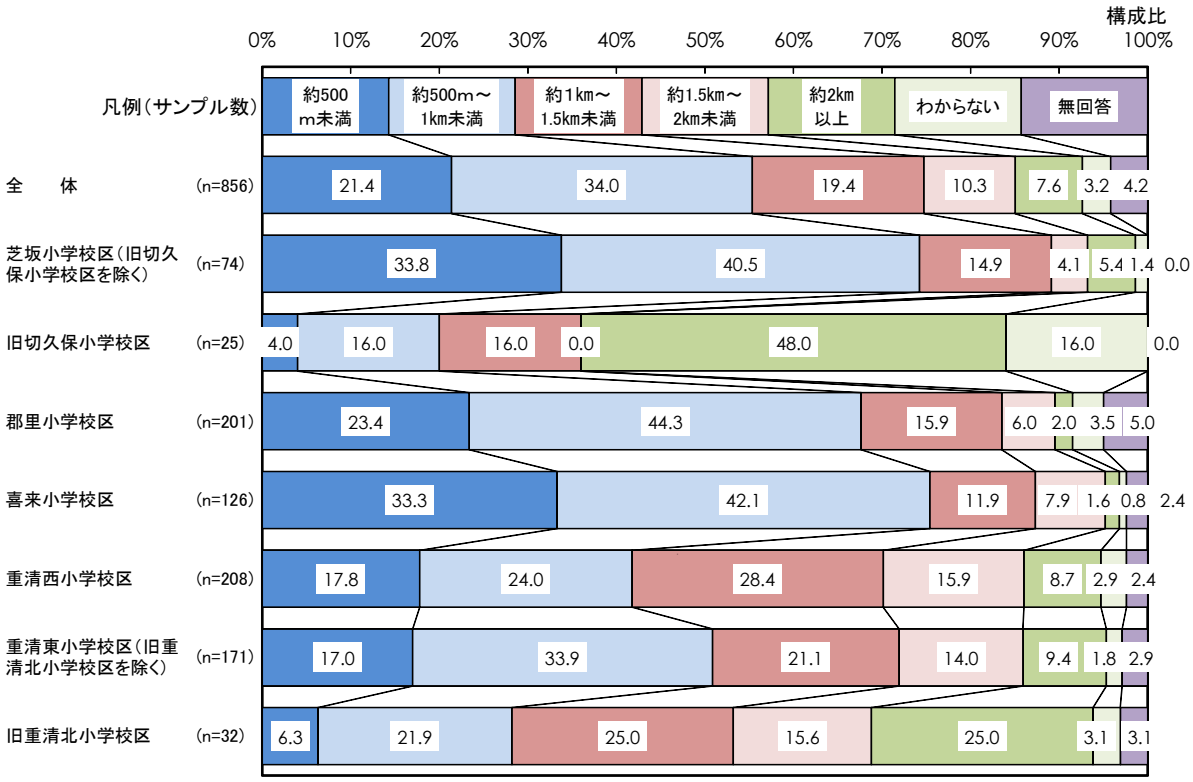
小学校区別にみると、芝坂小・郡里小・喜来小学校区は、いずれも自宅から小学校まで１km以内という回答が７割前後で、学校周辺に自宅の集積がみられる。一方、廃校となった旧切久保小・旧重清北小学校区は、「2 km以上」という回答がそれぞれ 48.0%、25.0%と高く、自宅が学校施設と離れている世帯が多くみられる。

図表３－６　自宅から小学校までの距離

項目	件数（人）	構成比（%）
1　約500m未満	183	21.4
2　約500m～1km未満	291	34.0
3　約1km～1.5km未満	166	19.4
4　約1.5km～2km未満	88	10.3
5　約2km以上	65	7.6
6　わからない	27	3.2
無回答	36	4.2
サンプル数	856	100.0



図表３－７　小学校区別自宅から小学校までの距離



（注）居住地区無回答者はクロス集計から除いているため、小学校区別回答者数と全体単純集計の回答者数は一致しない。
（以下、同じ。）

ウ　自宅から小学校までの移動手段

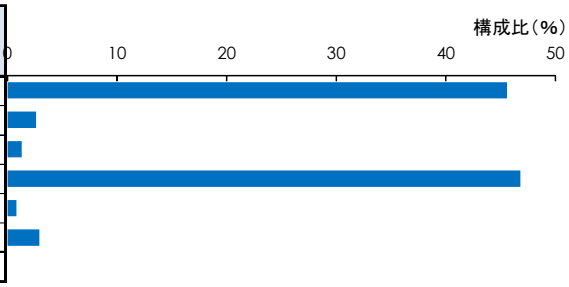
移動手段は、「自家用車（家族による送迎も含む）」が最も多く 46.8%、次いで「徒歩」が 45.6%で、大きく自家用車か徒歩に二分される。

小学校区別に自宅から小学校までの移動手段を比較すると、旧切久保小・重清西小・重清東小・旧重清北小学校の４校は、いずれも「自家用車」という回答が半数を超えている。したがって、施設整備に当たっては駐車場の確保が重要であるとともに、居住地から学校施設までの距離の面で、利活用用途と現実的な利用頻度を考慮する必要がある。自宅から学校施設までの距離別に移動手段をみると、１㎞未満までであれば、徒歩が半数以上を占めているが、１㎞を超えると、「自家用車（家族が送迎する場合も含む）」の割合が逆転しており、１㎞が徒歩と自家用車を分ける分岐点の目安と考えられる。

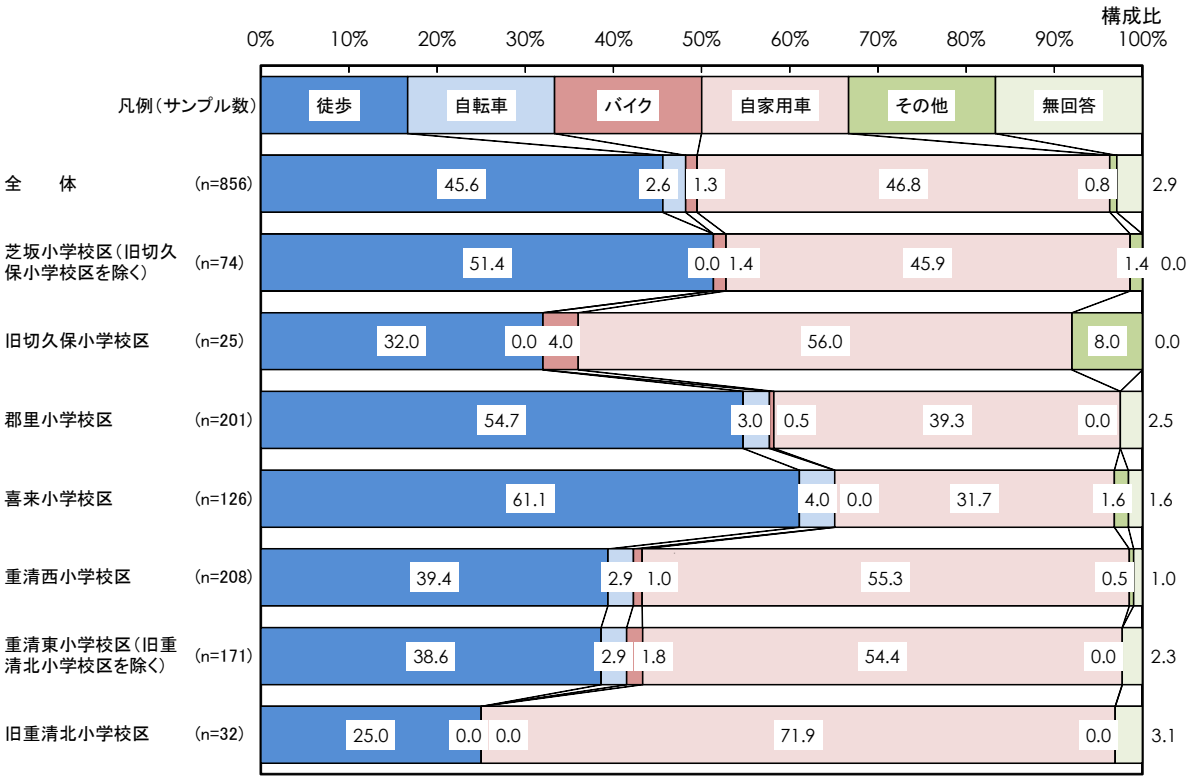
年代別にみても、交通手段に違いほとんどみられない。つまり、学校施設の整備に当たって駐車場整備を検討する際は、利用者の年齢層を問わず、集まる人たちの自宅からの距離に応じて整備していく必要がある。

図表３－８　自宅から小学校までの移動手段

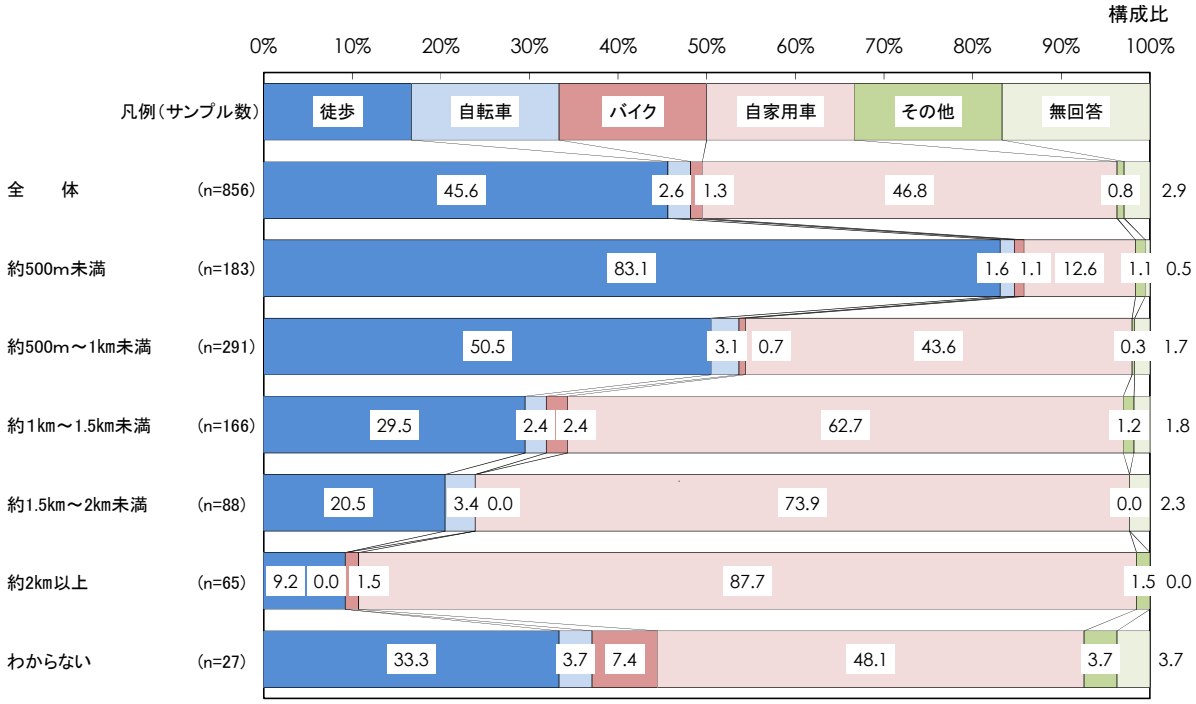
項目	件数（人）	構成比（%）
1　徒歩	390	45.6
2　自転車	22	2.6
3　バイク	11	1.3
4　自家用車（家族が送迎する場合も含む）	401	46.8
5　その他	7	0.8
無回答	25	2.9
サンプル数	856	100.0



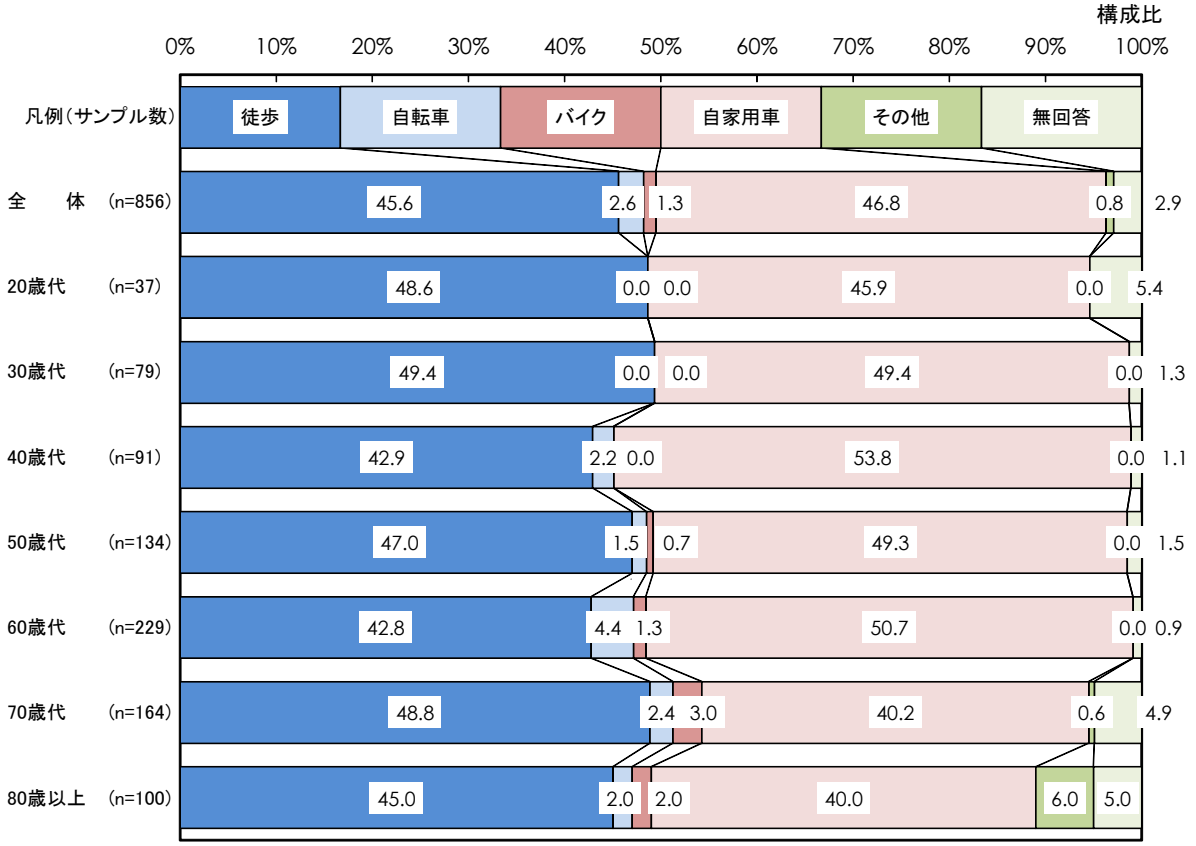
図表３－９　小学校区別自宅から小学校までの移動手段



図表３－１０　自宅からの距離別自宅から小学校までの移動手段



図表３－１１　年代別自宅から小学校までの移動手段



エ　小学校を訪問する回数

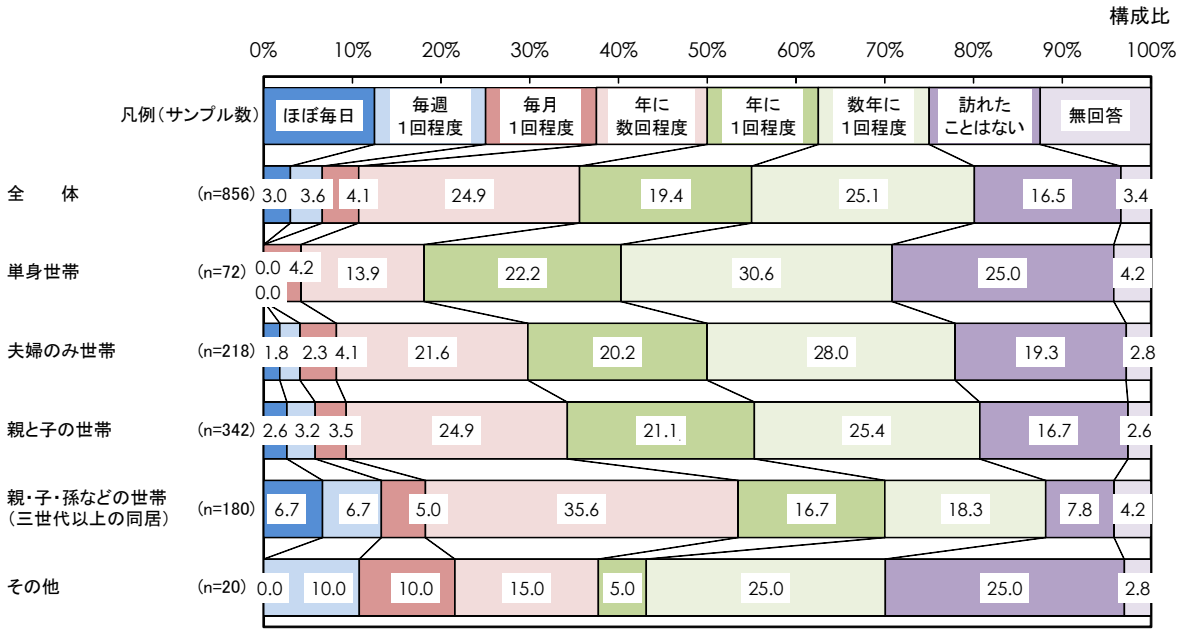
小学校を訪問する回数は「数年に１回程度」という回答が最も多く 25.1%、次いで「年に数回程度」が 24.9%、「年に１回程度」が 19.4%などの順となっている。年に１回以上訪れる人の割合は、合計すると 55.0%となり、５割を超えている。

家族構成別にみると、訪問頻度の高い順に、親・子・孫などの世帯、親と子の世帯、夫婦のみ世帯、単身世帯となっている。

図表３－１２　小学校を訪問する回数

	件数（人）	構成比（%）
1　ほぼ毎日	26	3.0
2　毎週1回程度	31	3.6
3　毎月1回程度	35	4.1
4　年に数回程度	213	24.9
5　年に1回程度	166	19.4
6　数年に1回程度	215	25.1
7　訪れたことはない	141	16.5
無回答	29	3.4
サンプル数	856	100.0

図表３－１３　家族構成別小学校を訪問する回数

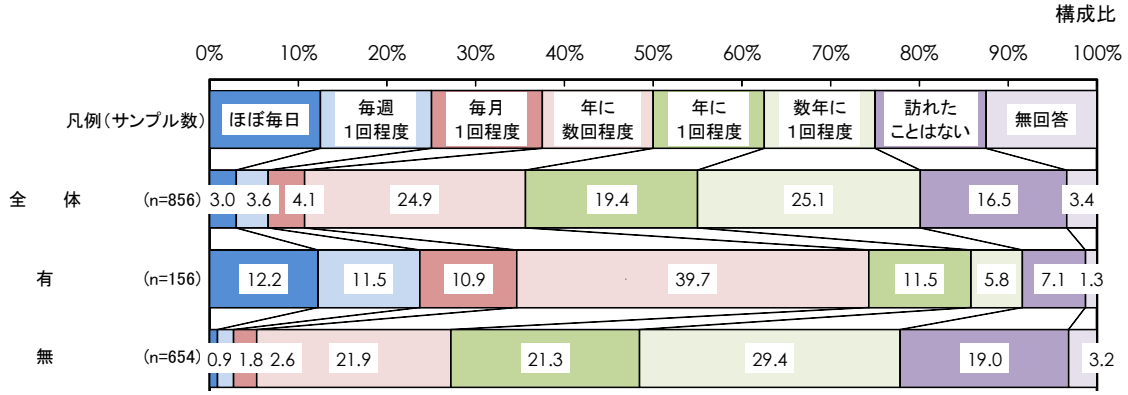


小学生以下の児童との同居の有無別にみると、同居している世帯の人は、「年に数回程度学校を訪問する」という回答が 39.7%で最も高く、年に１回以上訪問している割合を合計すると、85.8%にのぼる。一方、同居していない世帯の人の場合は「数年に１回程度」という回答が 29.4%最も多く、年に１回以上訪問している割合を合計すると 48.5%で、その差は約 40 ポイントとなっている。

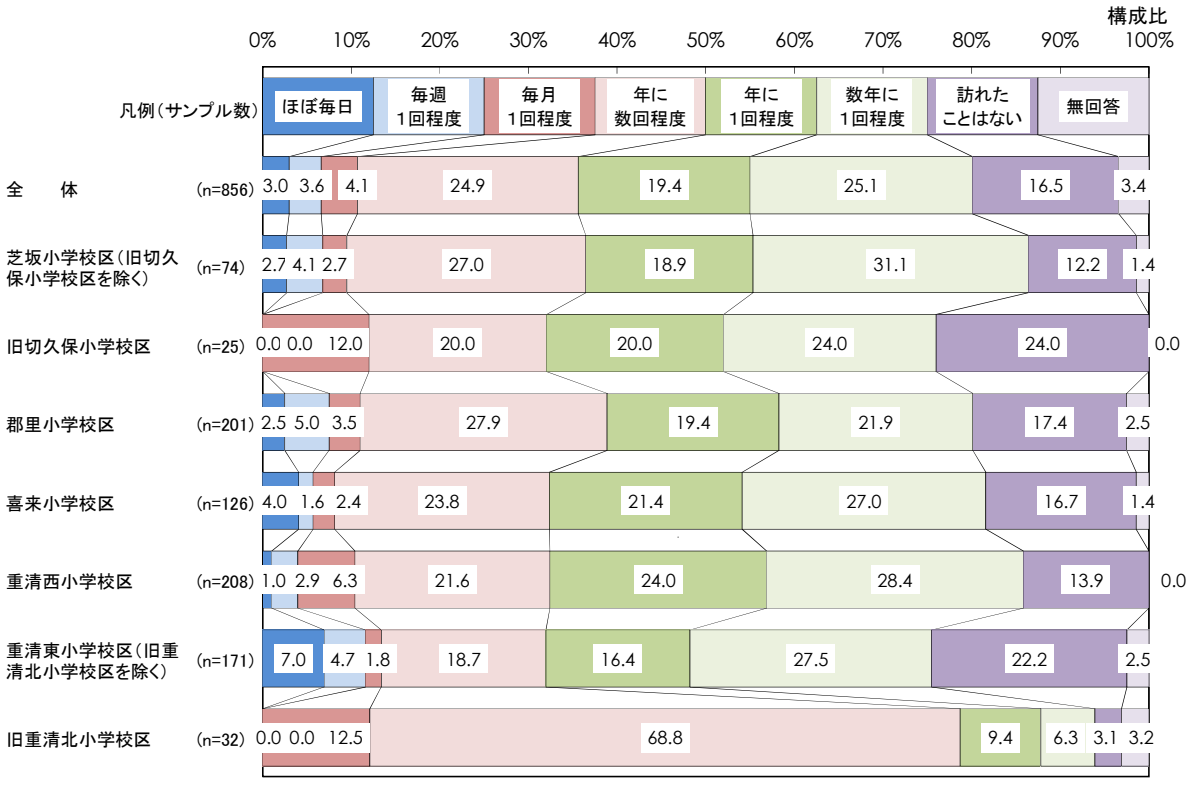
小学校区別にみると、年に１回以上訪れる人の割合に注目すると、旧重清北小学校区が 90.7%で突出して多く、次いで郡里小学校区が 58.3%、重清西小学校区が 55.8%などの順となっており、全体平均に比べて利用頻度が高くなっている。

旧重清北小学校の場合は、廃校後に改修が行われ、地区の集会施設となっていることから、改修の用途によっては他施設においても、旧重清北小学校と同程度まで利用頻度が高まる可能性がある。

図表３－１４　小学生以下の児童との同居の有無別小学校を訪問する回数



図表３－１５　小学校区別小学校を訪問する回数



オ　小学校との関係

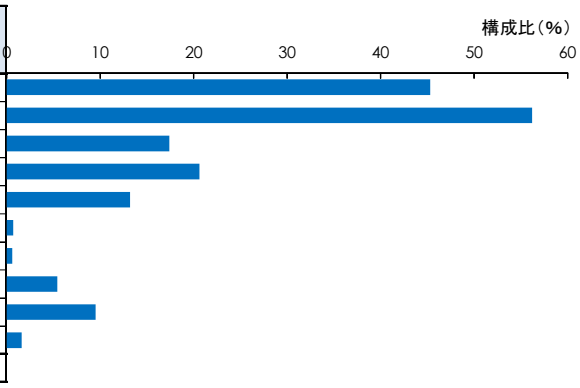
小学校との関係は、「自分の子どもの母校（在学中も含む）」という回答が最も多く 56.2%、次いで「自分の母校」が 45.3%、「夫や妻の母校」が 20.6%などの順となっている。

「いずれの関係もない」という割合は 9.5%なので、残りの約 9 割の住民が小学校と何らかの関係を有している。

小学校区別にみると、廃校となっている旧切久保小学校区と旧重清北小学校区は、回答者自身の母校という回答がそれぞれ 6 割を超えていることから、人口移動が少ない地域であることが推測される。また、「自分の子どもの母校」という回答は、いずれの小学校区においても 6 割近くを占めており、回答者及びその家族において、学校施設が身近な存在であることがうかがえる。

図表３－１６　小学校との関係

項目	件数（人）	構成比（%）
1　自分の母校	388	45.3
2　自分の子どもの母校（在学中も含む）	481	56.2
3　自分の親の母校	149	17.4
4　夫や妻の母校	176	20.6
5　自分の孫の母校（在学中も含む）	113	13.2
6　自分の職場	6	0.7
7　家族の職場	5	0.6
8　その他の関わり	46	5.4
9　いずれでもない	81	9.5
無回答	14	1.6
サンプル数	856	100.0



図表３－１７　小学校区別小学校との関係

		自分の母校	自分の子どもの母校（在学中も含む）	自分の親の母校	夫や妻の母校	自分の孫の母校（在学中も含む）	自分の職場	家族の職場	その他の関わり	いずれでもない	無回答
全　体	(856)	45.3	**56.2**	17.4	20.6	13.2	0.7	0.6	5.4	9.5	1.6
居住地区別 芝坂小学校区（旧切久保小学校区を除く）	(74)	45.9	**59.5**	21.6	16.2	16.2	-	-	6.8	6.8	-
居住地区別 旧切久保小学校区	(25)	**60.0**	56.0	16.0	20.0	8.0	-	-	8.0	4.0	-
居住地区別 郡里小学校区	(201)	51.2	**55.2**	17.9	19.4	11.9	0.5	1.0	6.0	7.5	0.5
居住地区別 喜来小学校区	(126)	36.5	**57.1**	11.1	19.0	17.5	-	-	7.1	14.3	0.8
居住地区別 重清西小学校区	(208)	44.2	**58.7**	13.5	26.0	10.1	1.0	1.4	2.9	8.2	0.5
居住地区別 重清東小学校区（旧重清北小学校区を除く）	(171)	42.7	**56.7**	21.1	17.0	16.4	1.2	-	5.8	12.3	0.6
居住地区別 旧重清北小学校区	(32)	**68.8**	59.4	40.6	37.5	9.4	3.1	-	6.3	-	-

凡例：**1位**　2位　（構成比：%）

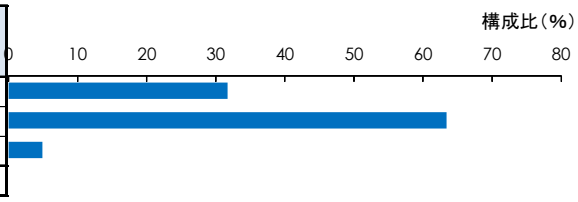
カ　地域活動への参加の有無

ボランティア活動やサークル活動、自治会活動などの地域活動に「参加している」人の割合は31.7%となっている。

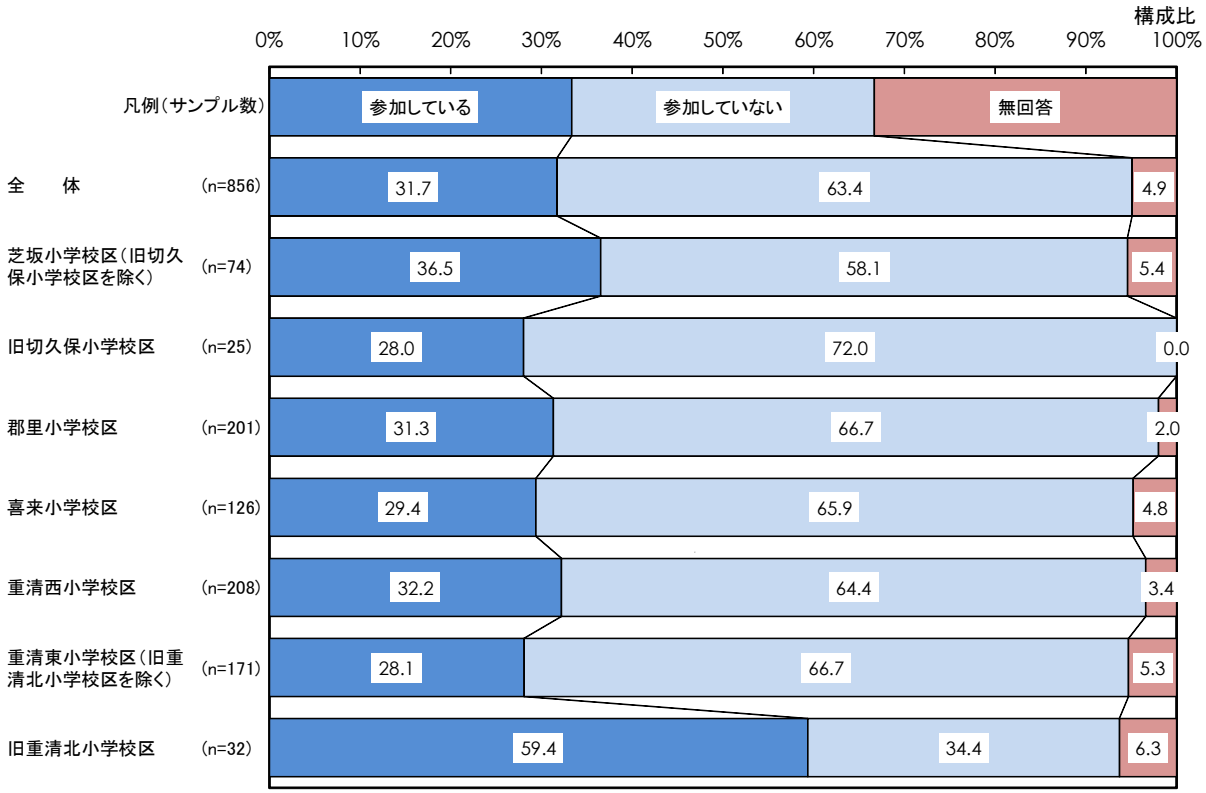
小学校区別にみると、参加率が最も高いのは旧重清北小学校区で 59.4%、その他の地区の参加率はおおむね 3 割前後となっている。

図表３－１８　地域活動への参加の有無

項目	件数（人）	構成比（%）
1　参加している	271	31.7
2　参加していない	543	63.4
無回答	42	4.9
サンプル数	856	100.0



図表３－１９　小学校区別地域活動への参加の有無



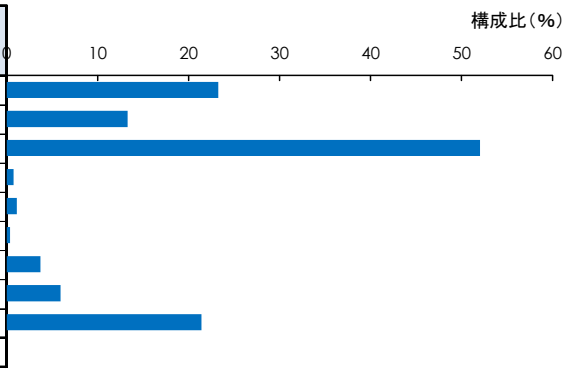
キ　地域活動の場所・内容

活動場所については公会堂や地域の集会所を利用しているという回答が 52.0%で最も多くなっている。学校施設を活用している例は 23.2%となっている。

各施設で行われている主な活動内容は、以下の表のとおりである。

図表３－２０　地域活動の場所・内容

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	63	23.2
2　福祉センター	36	13.3
3　公会堂や地域の集会所	141	52.0
4　産業センター	2	0.7
5　第1老人ルーム	3	1.1
6　第2老人ルーム	1	0.4
7　寺町防災交流センター	10	3.7
8　文化会館	16	5.9
9　その他	58	21.4
サンプル数	271	100.0



（注）グラフは、回答者が３つまで回答した結果を積み上げたもの。（以下、同じ。）

図表３－２１　施設別活動の内容（回答が 10 件以上のもの抜粋）

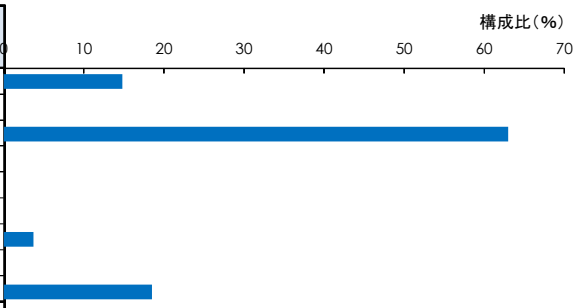
施設	活動内容
公会堂や地域の集会所	・自治会、婦人会、老人会、青年団、子供会活動 ・いきいきサロン ・自治会防災訓練 ・集会所の清掃、草刈り ・ボランティアサークル ・趣味の活動（大正琴、墨絵など）　など
学校施設	・いきいきサロン ・スポーツクラブ美馬、カローリング ・朗読ボランティア ・里帰り運動会 ・愛校作業 ・地域の防災訓練 ・野菜づくり指導 ・放課後子ども教室　など
福祉センター	・スポーツクラブ美馬 ・教室（料理、民謡舞踊、健康など） ・趣味の会（囲碁クラブ、能楽、ヨガ） ・保護司会 ・民生委員活動 ・ヘルシーメイト ・防災訓練　　など
文化会館	・各種教室（ハングル講座、中国語、識字、生け花など） ・老人会、婦人会、自治会 ・人権擁護委員協議会 ・カローリング　　など
寺町防災交流センター	・自治会 ・ＮＰＯ活動 ・スポーツクラブ美馬 ・防災訓練 ・観光ボランティア　　など

①　芝坂小学校区

芝坂小学校区の住民は「公会堂や地域の集会所」の利用が 63.0%で最も多くなっている。また、「学校施設」の利用は 14.8%となっている。

図表３－２２　芝坂小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	4	14.8
2　福祉センター	0	0.0
3　公会堂や地域の集会所	17	63.0
4　産業センター	0	0.0
5　第1老人ルーム	0	0.0
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	1	3.7
8　文化会館	0	0.0
9　その他	5	18.5
サンプル数	27	100.0

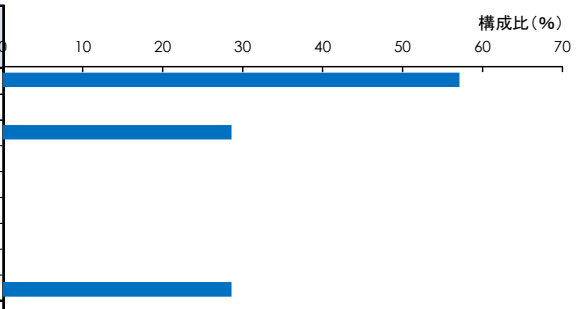


②　旧切久保小学校区

旧切久保小学校区の住民は、「学校施設」の利用が 57.1%、「公会堂や地域の集会所」の利用が 28.6%となっている。

図表３－２３　旧切久保区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	4	57.1
2　福祉センター	0	0.0
3　公会堂や地域の集会所	2	28.6
4　産業センター	0	0.0
5　第1老人ルーム	0	0.0
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	0	0.0
8　文化会館	0	0.0
9　その他	2	28.6
サンプル数	7	100.0

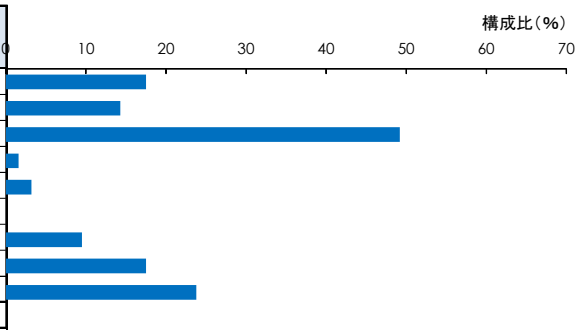


③　郡里小学校区

郡里小学校区の住民も芝坂小学校区と同様、「公会堂や地域の集会所」が 49.2%で最も多く、次いで「学校施設」と「文化会館」がともに 17.5%となっている。

図表３－２４　郡里小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	11	17.5
2　福祉センター	9	14.3
3　公会堂や地域の集会所	31	49.2
4　産業センター	1	1.6
5　第1老人ルーム	2	3.2
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	6	9.5
8　文化会館	11	17.5
9　その他	15	23.8
サンプル数	63	100.0

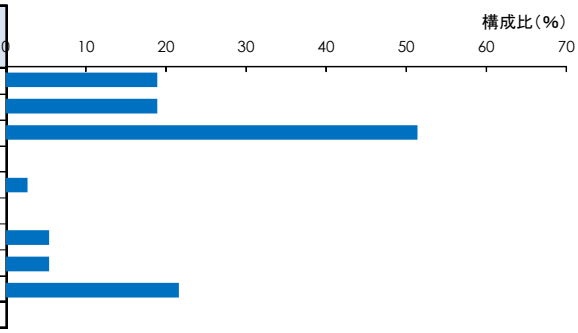


④　喜来小学校区

喜来小学校区も「公会堂や地域の集会所」が最も多く 51.4%、次いで「学校施設」と「福祉センター」がともに 18.9%となっている。

図表３－２５　喜来小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	7	18.9
2　福祉センター	7	18.9
3　公会堂や地域の集会所	19	51.4
4　産業センター	0	0.0
5　第1老人ルーム	1	2.7
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	2	5.4
8　文化会館	2	5.4
9　その他	8	21.6
サンプル数	37	100.0

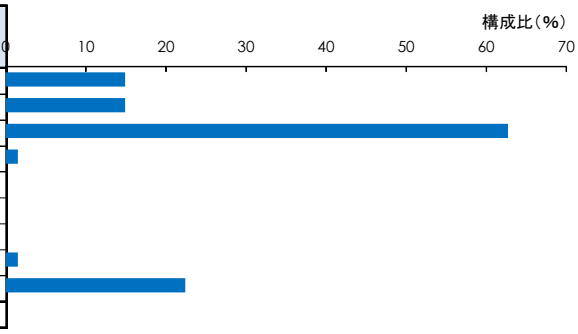


⑤　重清西小学校区

重清西小学校区も「公会堂や地域の集会所」が最も多く 62.7%、次いで「学校施設」と「福祉センター」がともに 14.9%となっている。

図表３－２６　重清西小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	10	14.9
2　福祉センター	10	14.9
3　公会堂や地域の集会所	42	62.7
4　産業センター	1	1.5
5　第1老人ルーム	0	0.0
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	0	0.0
8　文化会館	1	1.5
9　その他	15	22.4
サンプル数	67	100.0

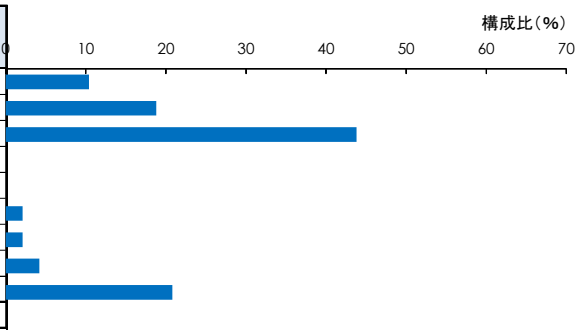


⑥　重清東小学校区

重清東小学校区も「公会堂や地域の集会所」が最も多く 43.8%、次いで「福祉センター」が 18.8%となっている。

図表３－２７　重清東小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	5	10.4
2　福祉センター	9	18.8
3　公会堂や地域の集会所	21	43.8
4　産業センター	0	0.0
5　第1老人ルーム	0	0.0
6　第2老人ルーム	1	2.1
7　寺町防災交流センター	1	2.1
8　文化会館	2	4.2
9　その他	10	20.8
サンプル数	48	100.0

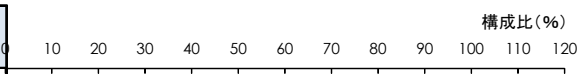


⑦　旧重清北小学校区

旧重清北小学校区は、旧切久保小学校区と同様に「学校施設」の利用が多く 110.5%にのぼっている。

図表３－２８　旧重清北小学校区住民の利用施設

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校施設	21	110.5
2　福祉センター	0	0.0
3　公会堂や地域の集会所	7	36.8
4　産業センター	0	0.0
5　第1老人ルーム	0	0.0
6　第2老人ルーム	0	0.0
7　寺町防災交流センター	0	0.0
8　文化会館	0	0.0
9　その他	2	10.5
サンプル数	19	100.0



（注）グラフは、回答者が３つまで回答した結果を積み上げているため、合計が 100%を超えている。

ク　学校施設を利用できる利点

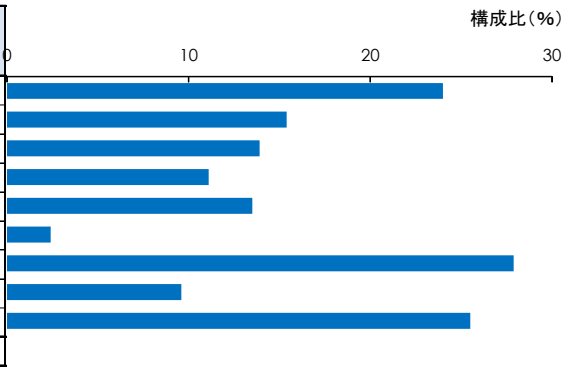
現在地域活動を行っている人に対し、学校施設を活動拠点として利用できるとしたらどんな利点があるか質問したところ、「特に変化はないと思う」（27.9%）という回答が最も多く、現在の利用施設に対して強い不満や問題を感じていないことがうかがえる。

具体的な利点としては、「活動場所が近くなる」が最も多く 24.0%、次いで「今までよりも参加者が多く集まれる」が 15.4%、「活動環境が快適になる」が 13.9%などの順となっている。

小学校区別にみても「特に変化はないと思う」という回答が多いものの、芝坂小学校区と喜来小学校区は「活動場所が近くなる」ことを歓迎する意見が多くみられ、従来の活動場所について遠いと感じている人が多い可能性がある。

図表３－２９　学校施設を利用できる利点

項目	件数（人）	構成比（%）
1　活動場所が近くなる	50	24.0
2　今までよりも参加者が多く集まれる	32	15.4
3　活動環境が快適になる	29	13.9
4　活動回数を増やすことができる	23	11.1
5　活動内容を充実できる	28	13.5
6　その他	5	2.4
7　特に変化はないと思う	58	27.9
8　わからない	20	9.6
無回答	53	25.5
サンプル数	208	100.0



図表３－３０　小学校区別学校施設を利用できる利点

			活動場所が近くなる	今までよりも参加者が多く集まれる	活動環境が快適になる	活動回数を増やすことができる	活動内容を充実できる	その他	特に変化はないと思う	わからない	無回答
		（　）内はサンプル数									
全　体		(208)	24.0	15.4	13.9	11.1	13.5	2.4	**27.9**	9.6	25.5
居住地区別	芝坂小学校区（旧切久保小学校区を除く）	(19)	**26.3**	15.8	15.8	10.5	10.5	-	**26.3**	-	31.6
	旧切久保小学校区	(2)	-	-	**50.0**	-	-	-	**50.0**	-	-
	郡里小学校区	(54)	20.4	9.3	11.1	11.1	7.4	5.6	**31.5**	11.1	27.8
	喜来小学校区	(29)	**34.5**	31.0	13.8	17.2	20.7	3.4	17.2	10.3	24.1
	重清西小学校区	(55)	21.8	18.2	12.7	9.1	14.5	1.8	**29.1**	10.9	23.6
	重清東小学校区（旧重清北小学校区を除く）	(39)	25.6	10.3	15.4	12.8	17.9	-	**28.2**	12.8	23.1
	旧重清北小学校区	(8)	12.5	12.5	**25.0**	-	12.5	-	**25.0**	-	37.5

凡例：　1位　2位　（構成比：%）

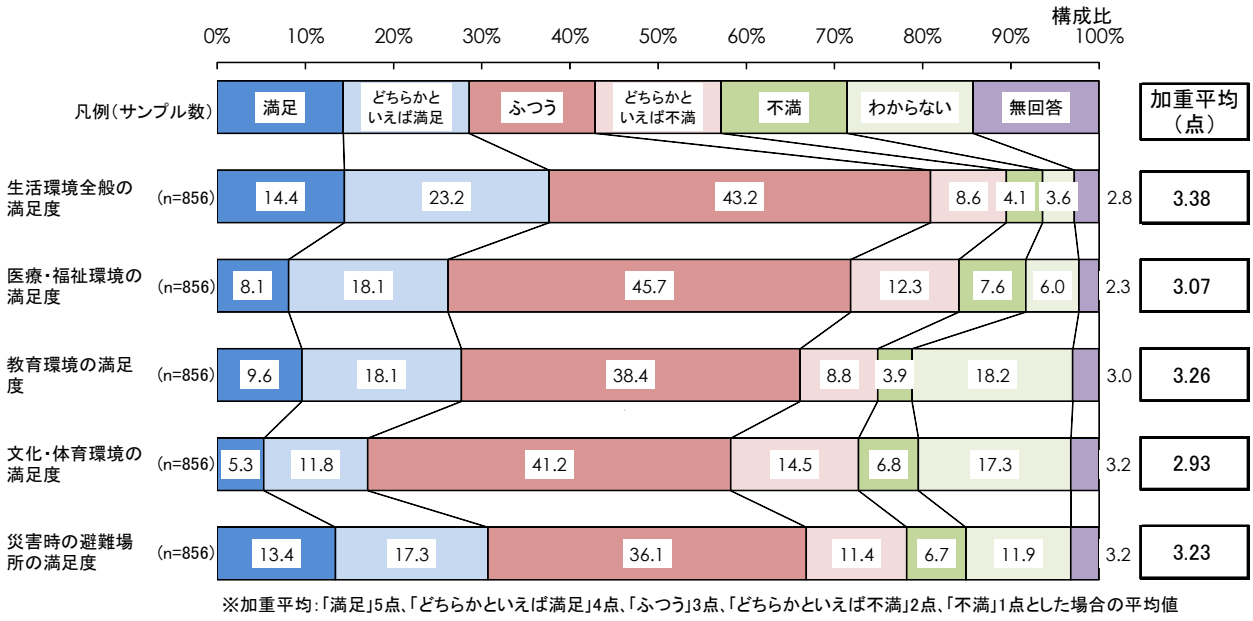
(3) 居住地区の生活環境

ア　生活環境の満足度

お住まいの地区の満足度について、「生活環境全般」「医療・福祉環境」「教育環境」「文化・体育環境」「災害時の避難場所」の以上５項目を質問した。

整理の仕方は、満足を５点、どちらかといえば満足を４点、ふつうを３点、どちらかといえば不満を２点、不満を１点とし、満足度を加重平均値で求めたところ、満足度が最も高かった項目は生活環境全般で3.38点、逆に低い項目は文化・体育環境で2.93点となっている。

図表３－３１　生活環境の満足度



※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

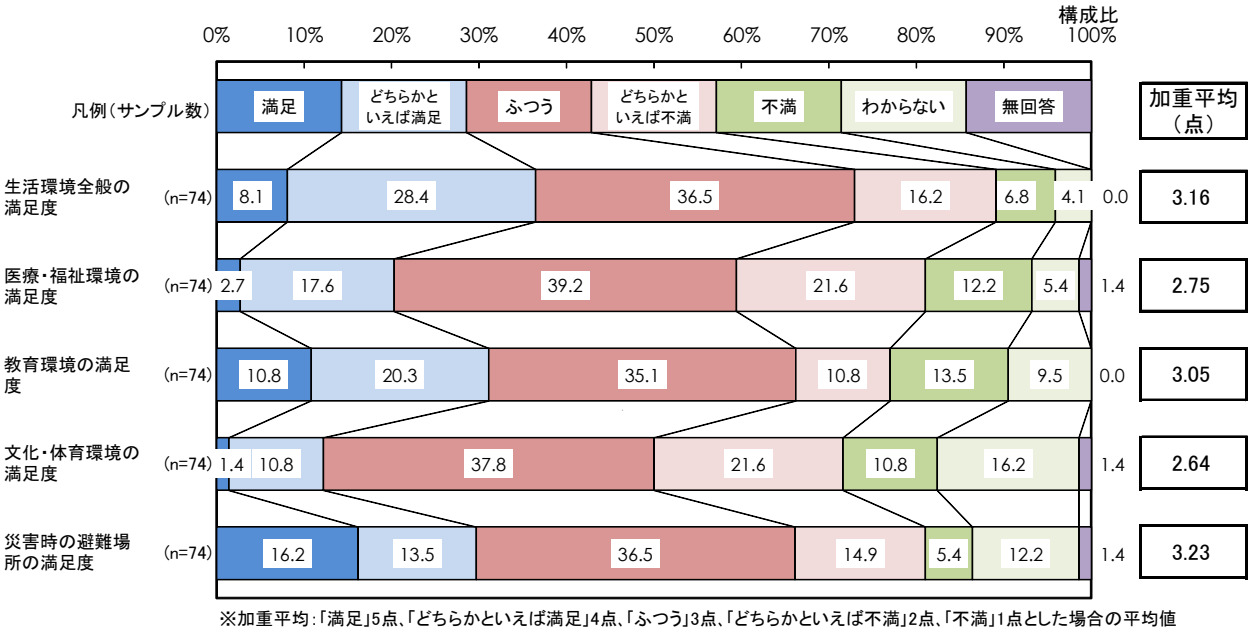
イ　地区別の満足度

①　芝坂小学校区

芝坂小学校区では、「災害時の避難場所」の満足度が高く 3.23 点、「文化・体育環境」の満足度が低く 2.64 点となっている。

学校施設が地域活動に使えるようになった場合の利点を尋ねる質問において、芝坂小・喜来小学校区の住民は、活動場所が近くなることを指摘している。このため、施設を文化・体育振興に役立てることで地域住民の満足度向上に寄与する可能性が高い。

図表３－３２　芝坂小学校区住民の生活満足度

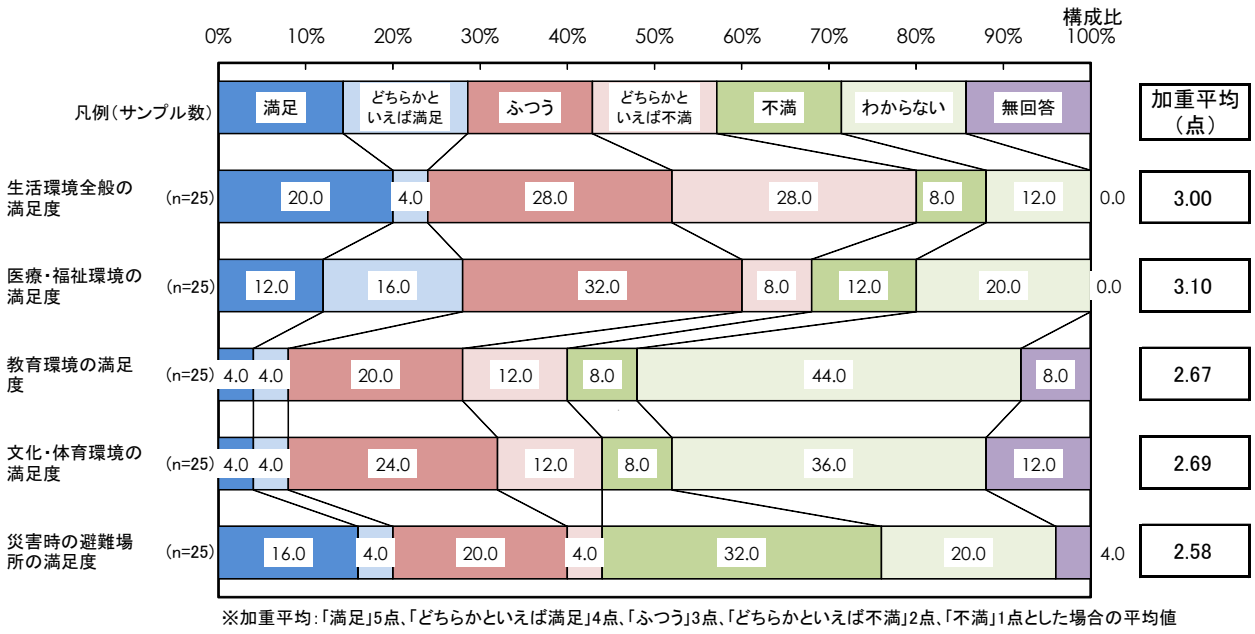


※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

②　旧切久保小学校区

旧切久保小学校区では、「医療・福祉環境」の満足度が高く 3.10 点、「災害時の避難場所」の満足度が低く 2.58 点となっている。ただし、災害時の避難場所に関しては満足という回答も 16.0%あり、必ずしも低くないことから、地域内でも更に細かいエリアごとに、意識に違いがある可能性がある。

図表３－３３　旧切久保小学校区住民の生活満足度

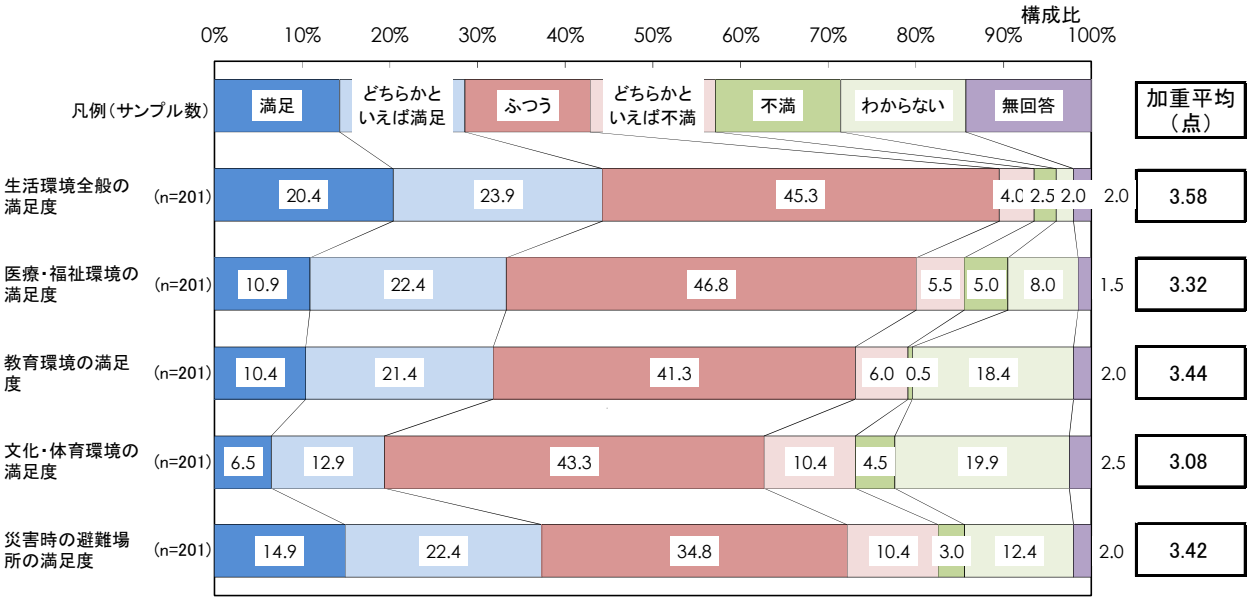


※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

③　郡里小学校区

郡里小学校区では、「生活環境全般」の満足度が高く 3.58 点、「文化・体育環境」の満足度が低く 3.08 点となっているが、後述する喜来小学校区と並んで全項目が 3.00 点を超えており、生活者の満足度のレベルは美馬地区内でも特に高い地域であると推測される。

図表３－３４　郡里小学校区住民の生活満足度



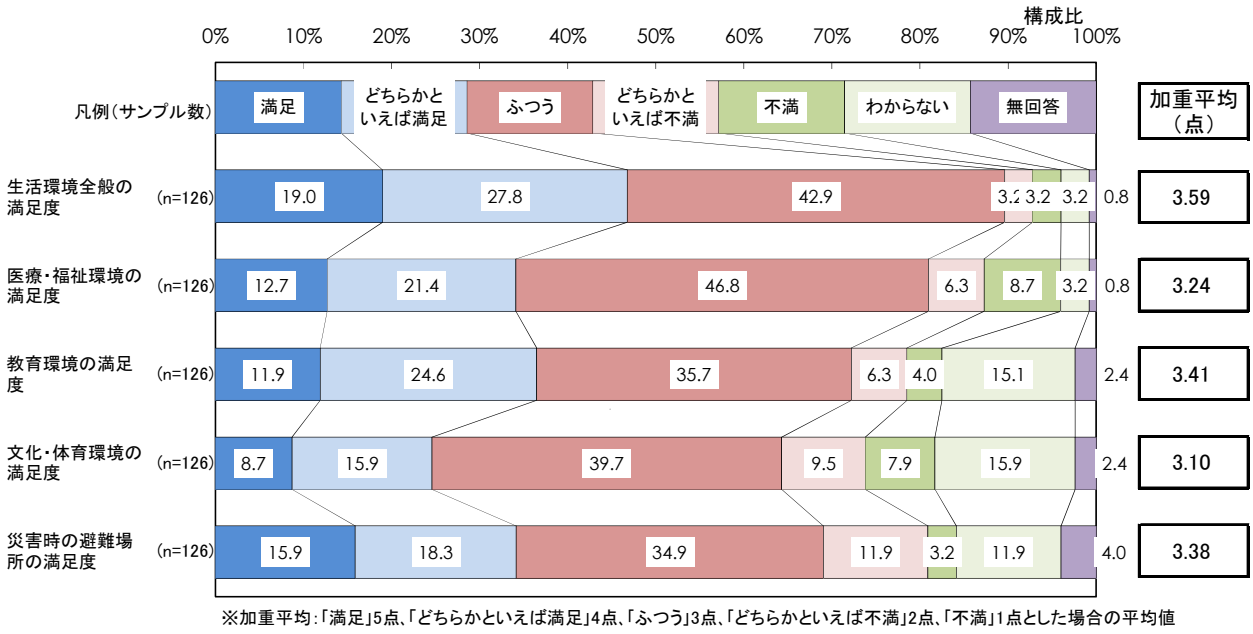
※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

④　喜来小学校区

喜来小学校区では、「生活環境全般」の満足度が高く 3.59 点、「文化・体育環境」の満足度が 3.10 点で低くなっており、郡里小学校区同様、美馬地区内でも特に生活者の満足度の高い地区といえる。

なお、「文化・体育環境」の評価の満足度が低いとはいうものの、他の小学校区における同評価に比べると最も高い点も喜来小学校区の特徴である。

図表３－３５　喜来小学校区住民の生活満足度

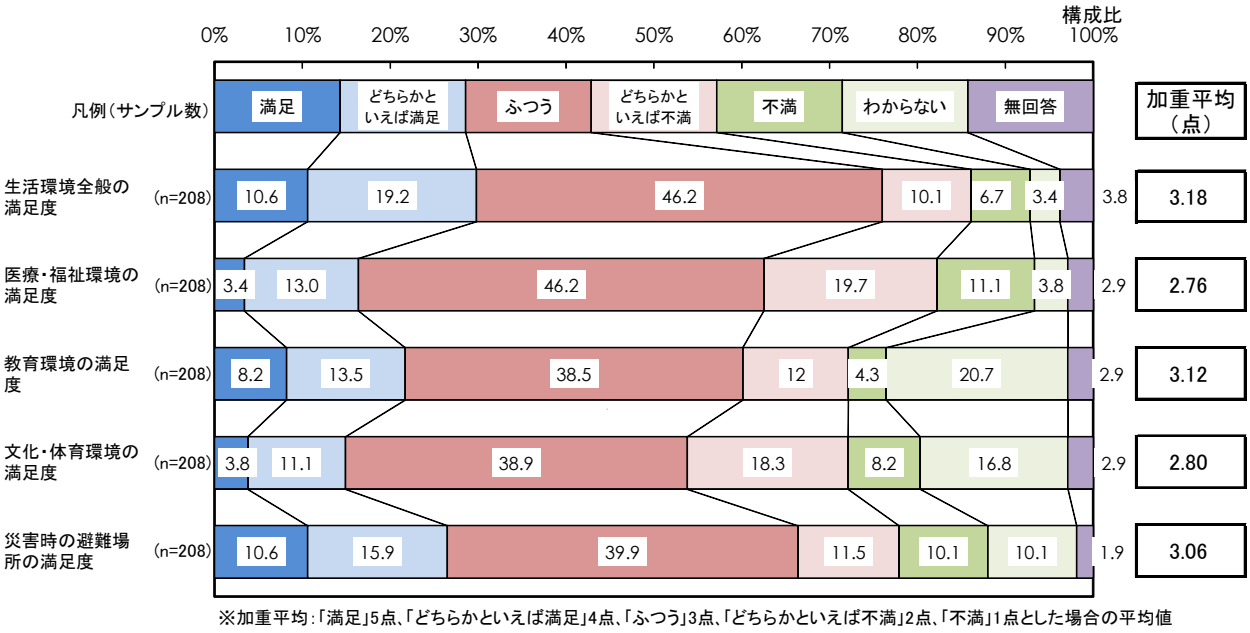


※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

⑤　重清西小学校区

重清西小学校では、「生活環境全般」の満足度が高く 3.18 点、「医療・福祉環境」の満足度が低く 2.76 点となっている。

図表３－３６　重清西小学校区住民の生活満足度

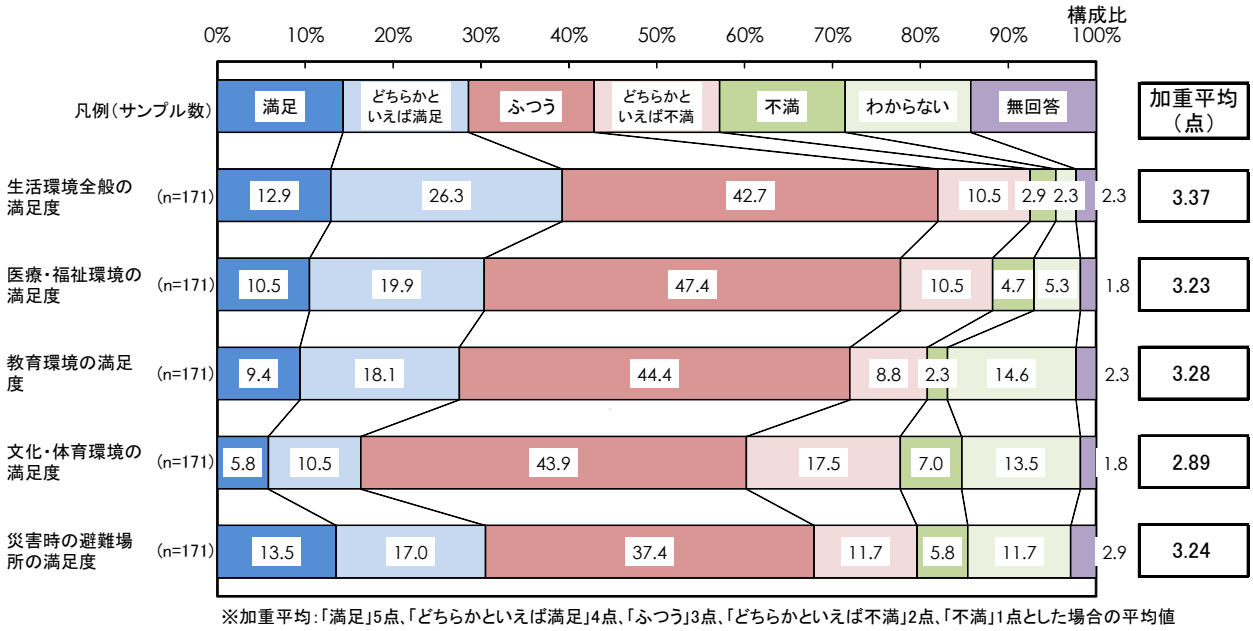


※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

⑥　重清東小学校区

重清東小学校では、「生活環境全般」の満足度が高く 3.37 点、「文化・体育環境」の満足度が低く 2.89 点となっている。

図表３－３７　重清東小学校区住民の生活満足度

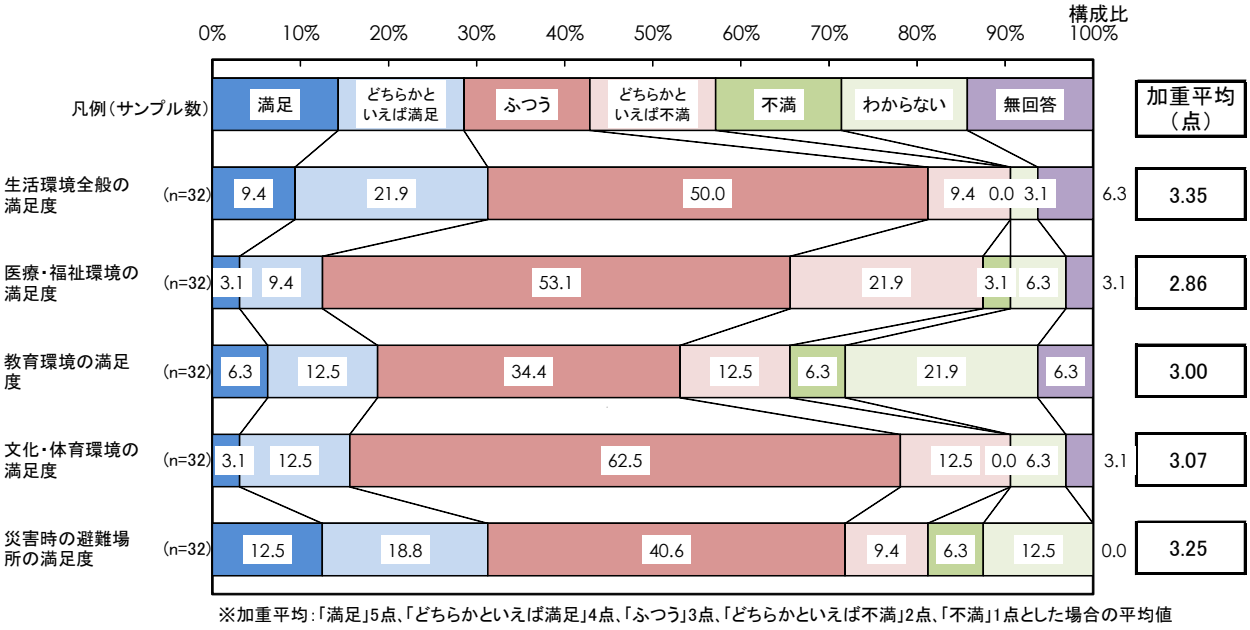


※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

⑦　旧重清北小学校区

重清北小学校では、「生活環境全般」の満足度が高く 3.35 点、「医療・福祉環境」の満足度が低く 2.86 点となっている。

図表３－３８　旧重清北小学校区住民の生活満足度



※加重平均：「満足」5点、「どちらかといえば満足」4点、「ふつう」3点、「どちらかといえば不満」2点、「不満」1点とした場合の平均値

図表３－３９　地域評価のまとめ

地区	評価が高い項目		評価が低い項目	
芝坂小学校区	災害時の避難場所	3.23 点	文化・体育環境	2.64 点
旧切久保小学校区	医療・福祉環境	3.10 点	災害時の避難場所	2.58 点
郡里小学校区	生活環境全般	3.58 点	文化・体育環境	3.08 点
喜来小学校区	生活環境全般	3.59 点	文化・体育環境	3.10 点
重清西小学校区	生活環境全般	3.18 点	医療・福祉環境	2.76 点
重清東小学校区	生活環境全般	3.37 点	文化・体育環境	2.89 点
旧重清北小学校区	生活環境全般	3.35 点	医療・福祉環境	2.86 点

(4) 学校施設の利活用に関する意向

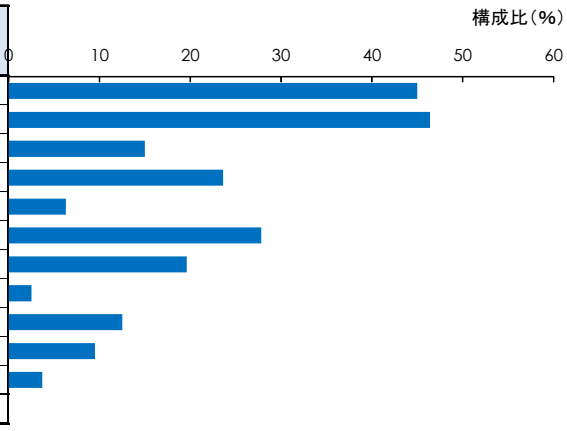
ア　廃校がもたらす地区の変化

小学校が廃校になることによって想定される地区の変化としては、「地区住民同士が集まる機会が少なくなる」という回答が最も多く 46.4%、次いで「学校や子どもに関心がなくなる」が 45.0%、「災害の避難に対する不安が高まる」が 27.8%などの順となっている。

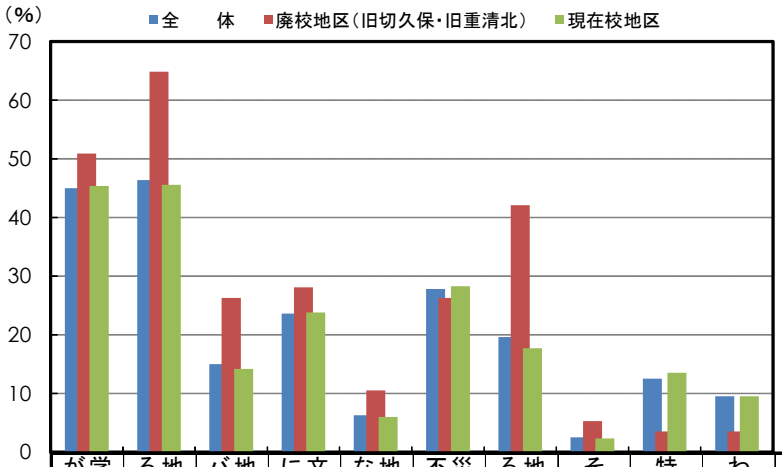
既に廃校になっている旧切久保・旧重清北小学校地区を合わせたグループ（以下、廃校となった地区）と、その他の小学校地区グループ（以下、その他の地区）で比較すると、廃校となった地区は「地区を去る人が増える」（24.4 ポイント高）、「地区住民同士が集まる機会が減る」（19.3 ポイント高）などの項目においてその他のグループよりも顕著に高くなっている。「地区を去る人が増える」などは、廃校の結果か廃校の原因か判断が難しい部分があるが、廃校経験の違いが回答結果の違いとしてあらわれている。

図表３－４０　廃校がもたらす地区の変化

項目	件数（人）	構成比（%）
1　学校や子どもに関心がなくなる	385	45.0
2　地区住民同士が集まる機会が減る	397	46.4
3　地区住民の心がバラバラになる	128	15.0
4　文化や伝統を継承しにくくなる	202	23.6
5　地区の商店が少なくなる	54	6.3
6　災害の避難に対する不安が高まる	238	27.8
7　地区を去る人が増える	168	19.6
8　その他	21	2.5
9　特に変化はない	107	12.5
10　わからない	81	9.5
無回答	32	3.7
サンプル数	856	100.0



図表３－４１　現在校・廃校区別廃校がもたらす地区の変化



		（ ）内はサンプル数	学校や子どもに関心がなくなる	地区住民同士が集まる機会が減る	地区住民の心がバラバラになる	文化や伝統を継承しにくくなる	地区の商店が少なくなる	災害の避難に対する不安が高まる	地区を去る人が増える	その他	特に変化はない	わからない	無回答
全　体		（856）	45.0	**46.4**	15.0	23.6	6.3	27.8	19.6	2.5	12.5	9.5	3.7
地区別	廃校地区（旧切久保・旧重清北）	（57）	50.9	**64.9**	26.3	28.1	10.5	26.3	42.1	5.3	3.5	3.5	1.8
	現在校地区	（780）	45.4	**45.6**	14.2	23.8	6.0	28.3	17.7	2.3	13.5	9.5	3.2

凡例：　1位　2位　（構成比：%）

イ　学校施設の今後のあり方

お住まいの地区の小学校が廃校となった場合の施設のあり方としては、以下のような意見がだされた。

図表３－４２　学校施設の今後のあり方

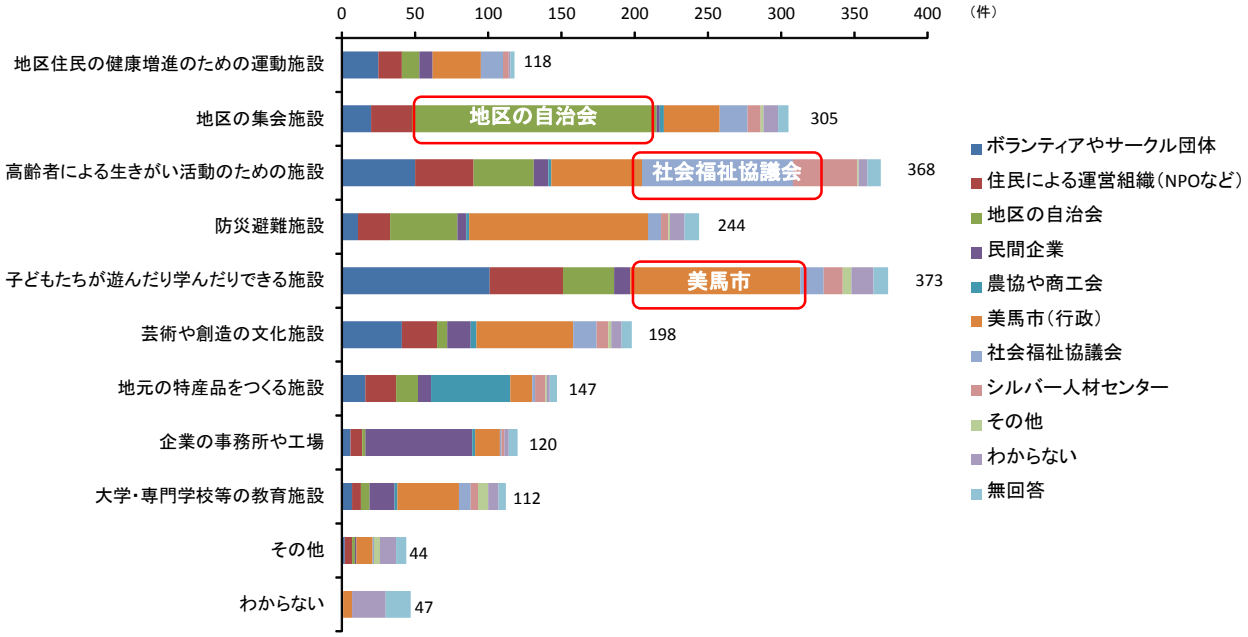
期待される機能	イメージ・キーワード
子どもたちの学び・遊びの場機能	遊び場 子ども用の公園、遊園 幼児等の預かり場所 子育て拠点
安全・安心機能	災害時の避難所 救難物資の保管場所 被災時の仮住居
行政機能	管理する人が常駐 投票所
美馬福祉センター代替機能	青年、成人、老人の生涯学習 多目的施設 生涯教育
高齢者の生きがい活動機能	敬老会実施 シニア世代の健康づくり
コミュニティ施設機能	地域行事開催 話しあい・コミュニティの場 集会場 年齢に関係なく気軽に寄れる場 青年団活動の場 子供や孫達と楽しめる場
地区住民の健康増進機能	スポーツセンター スポーツ行事交流の場 診療所 福祉センター ケアサービス施設
文化活動機能	地域に受け継がれている文化伝承 地域文化と歴史を遺すための記念館 イベント・催し物開催の場 図書館 美術館 コンサート会場・演奏の練習室 映画会 演芸会 環境趣味や集会 サークルで利用
特産品開発機能	地元の特産品を作る施設 産直市や日曜市のできる場所
企業誘致機能	若者の雇用創出 ＩＴ企業など誘致
その他（生活・宿泊機能）	老人ホーム 独居高齢者のグループホーム 障がい者施設 地元民向けマンション スポーツ団体等の合宿施設 観光客の素泊まり宿 学生誘致

ウ　廃校後の校舎の利活用方法と担い手

第１希望から第３希望まで回答件数を積み上げてみると、最も多い意見は「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」で 373 件、次いで「高齢者による生きがい活動のための施設」が 368 件、「地区の集会施設」が 305 件などの順となっている。

それぞれ担い手に関しては、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」の場合は美馬市、「高齢者による生きがい活動のための施設」の場合は社会福祉協議会、「地区の集会施設」の場合は地区の自治会による運営を、それぞれ望む意見が多くなっている。

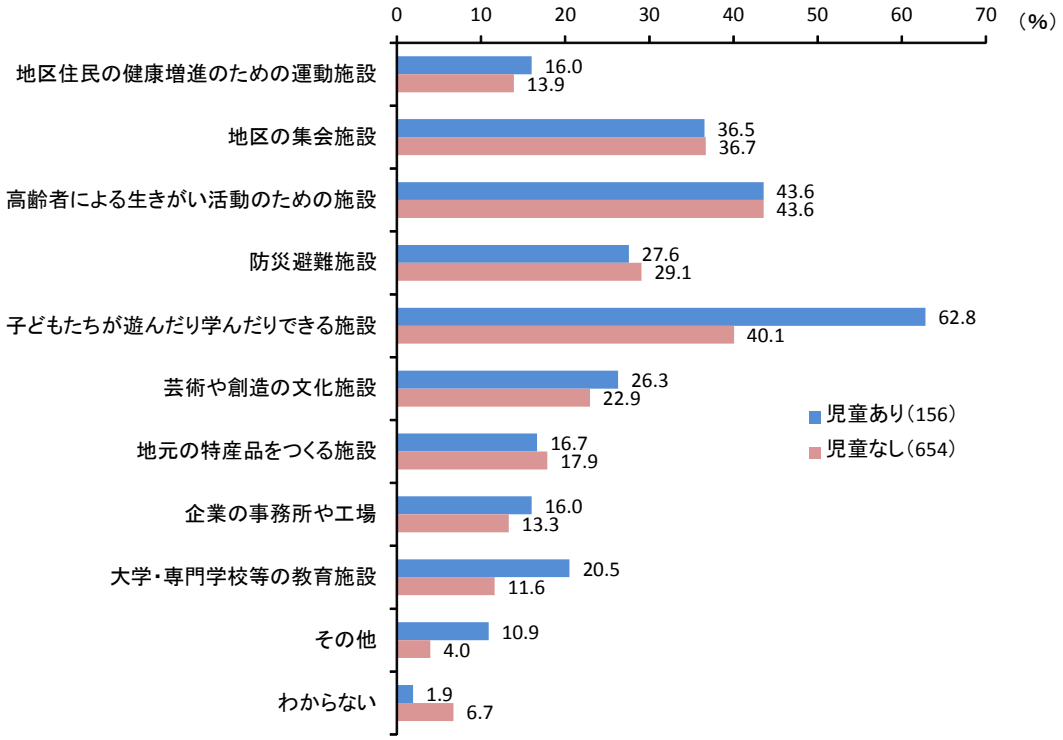
図表３－４３　廃校後の校舎の利活用方法と担い手



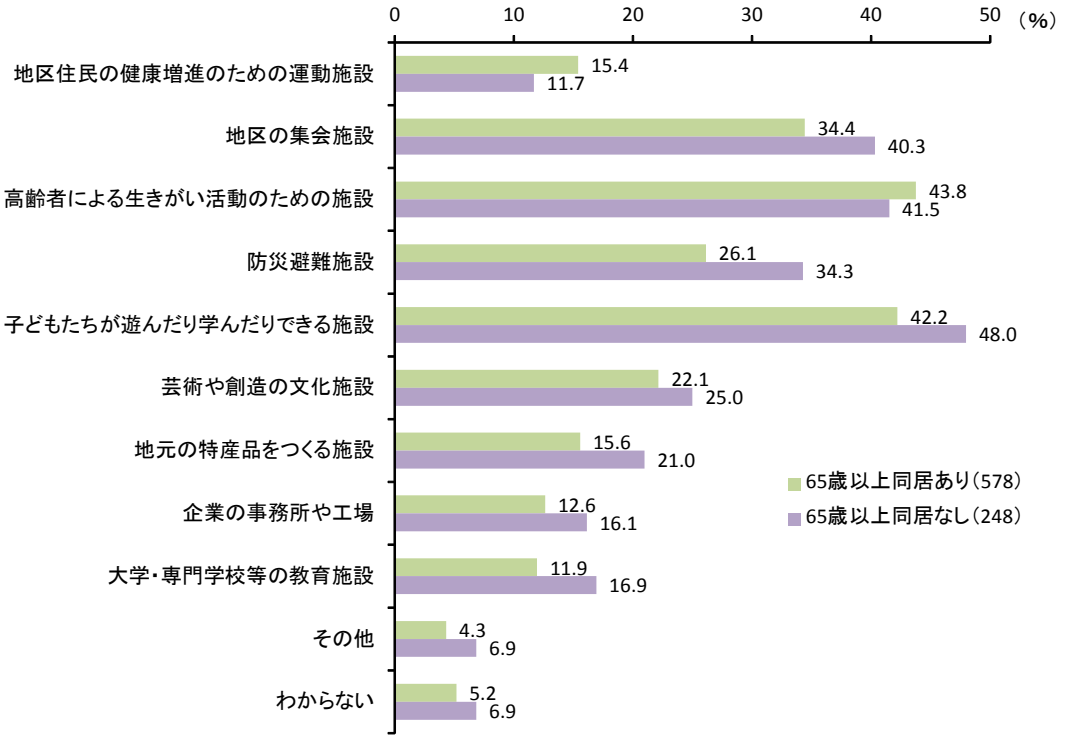
小学生以下の児童との同居の有無別にみると、同居している世帯の人の場合は、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 62.8％で最も多く、児童と同居していない世帯の人に比べ 20 ポイント以上高くなっている。

一方、65 歳以上の高齢者との同居の有無別にみると、同居している世帯の人の場合は、「高齢者による生きがいのための施設」が 43.8％で最も高くなっている。このように、家族構成によってニーズが異なることを勘案すると、将来的な人口構成の変化によってニーズが変化しうる点も考慮にいれた利活用が必要である。

図表３－４４　小学生以下の児童の有無別廃校後の校舎の利活用方法



図表３－４５　65 歳以上の高齢者との同居の有無別廃校後の校舎の利活用方法



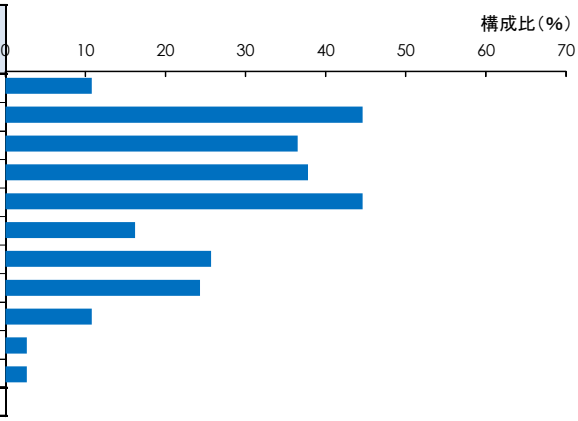
①　芝坂小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

芝坂小学校区では、「地区の集会施設」と「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」がともに44.6%で最も多くなっている。

また他の小学校区と比べると、「地元の特産品をつくる施設」や「企業の事務所や工場」といった産業振興分野の利活用を望む意見が、比較的多いのも芝坂小学校区の特徴となっている。

図表３－４６　芝坂小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	8	10.8
2　地区の集会施設	33	44.6
3　高齢者による生きがい活動のための施設	27	36.5
4　防災避難施設	28	37.8
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	33	44.6
6　芸術や創造の文化施設	12	16.2
7　地元の特産品をつくる施設	19	25.7
8　企業の事務所や工場	18	24.3
9　大学･専門学校等の教育施設	8	10.8
10　その他	2	2.7
11　わからない	2	2.7
サンプル数	74	100.0



②　旧切久保小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

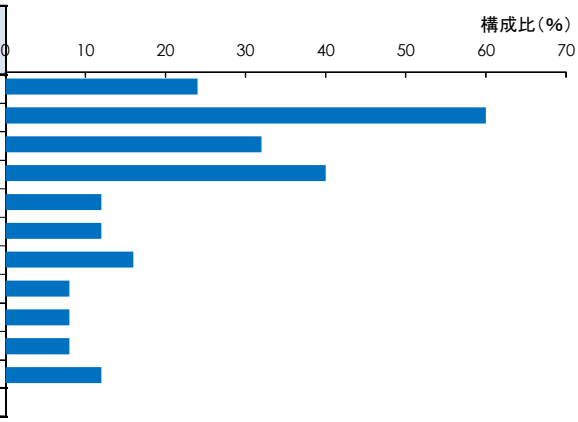
旧切久保小学校区では、「地区の集会施設」の希望が60.0%で半数を超えている。

地区の評価において満足度が最も低かった防災環境に関しては、「防災避難施設」の希望が40.0%で、利活用方法としては２番目に多く、他の小学校区と比べると、希望する割合は最も高くなっている。

後述する旧重清北小学校区と共通して、子どもたちのための利用希望が少ない。児童数の減少に伴い次第に子どもから高齢者へと地域課題が移行する様子がうかがえる結果となっている。

図表３－４７　旧切久保小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	6	24.0
2　地区の集会施設	15	60.0
3　高齢者による生きがい活動のための施設	8	32.0
4　防災避難施設	10	40.0
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	3	12.0
6　芸術や創造の文化施設	3	12.0
7　地元の特産品をつくる施設	4	16.0
8　企業の事務所や工場	2	8.0
9　大学･専門学校等の教育施設	2	8.0
10　その他	2	8.0
11　わからない	3	12.0
サンプル数	25	100.0

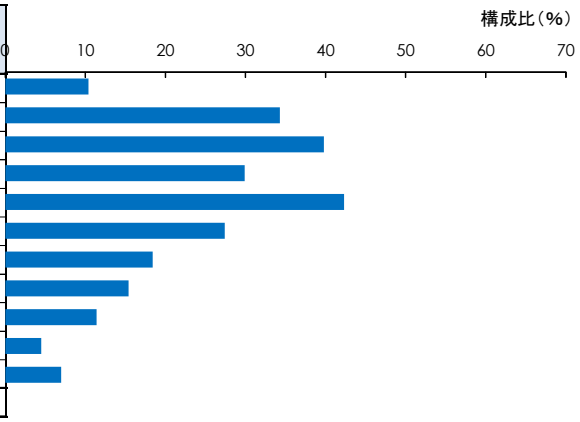


③　郡里小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

郡里小学校区では前述の旧切久保小学校区とは異なり、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」の希望が 42.3%で最も多くなっている。小学校の統合後も、当該地区に在住する児童数が一定数見込まれる場合は、子どものための利活用も可能性が見込まれる。

図表３－４８　郡里小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	21	10.4
2　地区の集会施設	69	34.3
3　高齢者による生きがい活動のための施設	80	39.8
4　防災避難施設	60	29.9
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	85	42.3
6　芸術や創造の文化施設	55	27.4
7　地元の特産品をつくる施設	37	18.4
8　企業の事務所や工場	31	15.4
9　大学･専門学校等の教育施設	23	11.4
10　その他	9	4.5
11　わからない	14	7.0
サンプル数	201	100.0

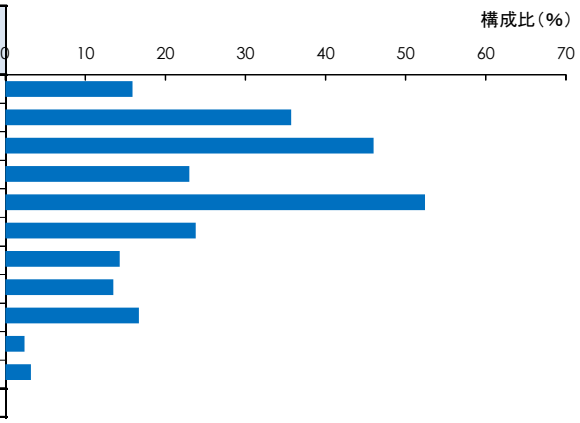


④　喜来小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

喜来小学校区も郡里小学校区と同じ傾向で、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 52.4%で最も多く、次いで「高齢者の生きがい活動のための施設」で 46.0%などとなっている。

図表３－４９　喜来小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	20	15.9
2　地区の集会施設	45	35.7
3　高齢者による生きがい活動のための施設	58	46.0
4　防災避難施設	29	23.0
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	66	52.4
6　芸術や創造の文化施設	30	23.8
7　地元の特産品をつくる施設	18	14.3
8　企業の事務所や工場	17	13.5
9　大学･専門学校等の教育施設	21	16.7
10　その他	3	2.4
11　わからない	4	3.2
サンプル数	126	100.0

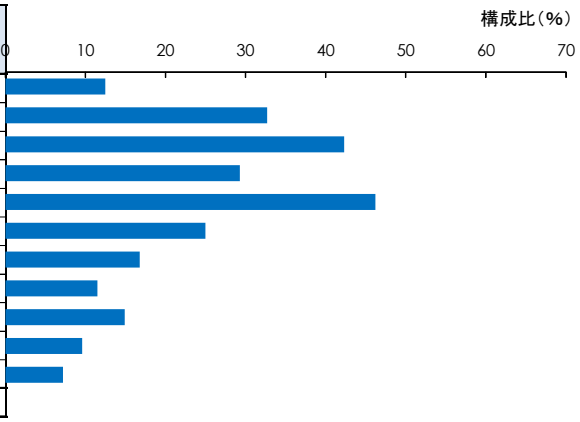


⑤　重清西小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

重清西小学校区も、郡里小学校区や喜来小学校区と同様の傾向がみられ、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 46.2%で最も多く、次いで「高齢者による生きがい活動のための施設」が 42.3%などの順となっている。

図表３－５０　重清西小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	26	12.5
2　地区の集会施設	68	32.7
3　高齢者による生きがい活動のための施設	88	42.3
4　防災避難施設	61	29.3
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	96	46.2
6　芸術や創造の文化施設	52	25.0
7　地元の特産品をつくる施設	35	16.8
8　企業の事務所や工場	24	11.5
9　大学･専門学校等の教育施設	31	14.9
10　その他	20	9.6
11　わからない	15	7.2
サンプル数	208	100.0

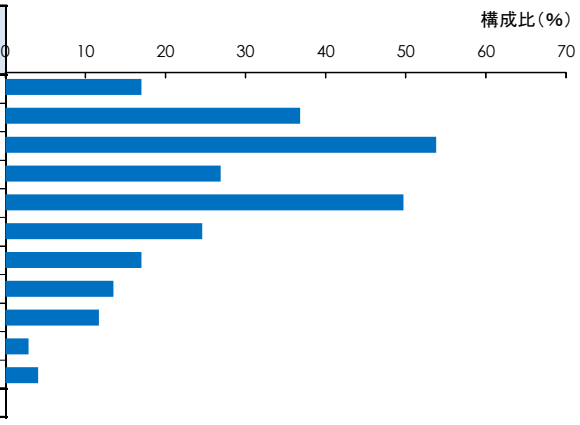


⑥　重清東小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

重清東小学校区では、「高齢者による生きがい活動のための施設」が最も多く 53.8%、次いで「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 49.7%などの順となっている。

図表３－５１　重清東小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	29	17.0
2　地区の集会施設	63	36.8
3　高齢者による生きがい活動のための施設	92	53.8
4　防災避難施設	46	26.9
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	85	49.7
6　芸術や創造の文化施設	42	24.6
7　地元の特産品をつくる施設	29	17.0
8　企業の事務所や工場	23	13.5
9　大学･専門学校等の教育施設	20	11.7
10　その他	5	2.9
11　わからない	7	4.1
サンプル数	171	100.0

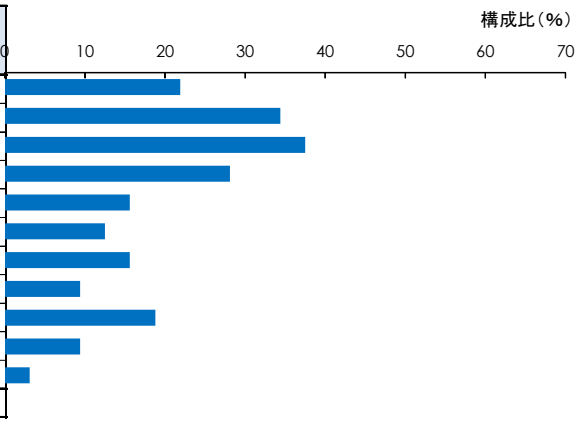


⑦　旧重清北小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

旧重清北小学校区の場合は、「高齢者による生きがい活動のための施設」が 37.5%で最も多く、次いで「地区の集会施設」が 34.4%などの順となっている。

図表３－５２　旧重清北小学校区における廃校後の校舎の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	7	21.9
2　地区の集会施設	11	34.4
3　高齢者による生きがい活動のための施設	12	37.5
4　防災避難施設	9	28.1
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	5	15.6
6　芸術や創造の文化施設	4	12.5
7　地元の特産品をつくる施設	5	15.6
8　企業の事務所や工場	3	9.4
9　大学･専門学校等の教育施設	6	18.8
10　その他	3	9.4
11　わからない	1	3.1
サンプル数	32	100.0



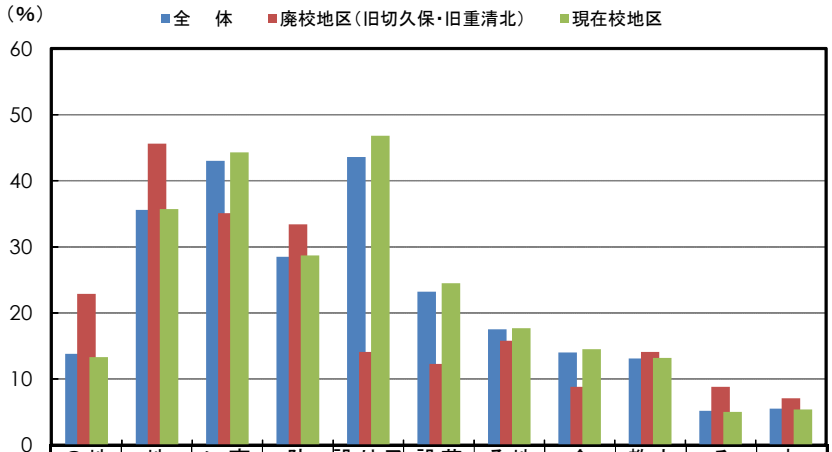
図表３－５３　校舎利活用のまとめ

地区	１位		２位	
芝坂小学校区	地区の集会施設	44.6%	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	44.6%（１位）
旧切久保小学校区	地区の集会施設	60.0%	防災避難施設	40.0%
郡里小学校区	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	42.3%	高齢者による生きがい活動のための施設	39.8%
喜来小学校区	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	52.4%	高齢者の生きがい活動のための施設	46.0%
重清西小学校区	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	46.2%	高齢者による生きがい活動のための施設	42.3%
重清東小学校区	高齢者による生きがい活動のための施設	53.8%	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	49.7%
旧重清北小学校区	高齢者による生きがい活動のための施設	37.5%	地区の集会施設	34.4%

⑧　廃校地区と現在校地区別にみた校舎利活用の希望

廃校となった地区とその他の地区で比較すると、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」のニーズは 14.1%で、その他の地区に比べると 30 ポイント以上低く、大きなギャップがみられる。このように、施設の利活用に当たっては、将来的な地域児童数の減少を織り込んだ利活用方法を検討する必要がある。

図表３－５４　廃校地区と現在校地区別廃校後の校舎の利活用方法



		( )内はサンプル数	地区住民の健康増進のための運動施設	地区の集会施設	高齢者による生きがい活動のための施設	防災避難施設	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	芸術や創造の文化施設	地元の特産品をつくる施設	企業の事務所や工場	大学・専門学校等の教育施設	その他	わからない
全　体		(856)	13.8	35.6	43.0	28.5	**43.6**	23.2	17.5	14.0	13.1	5.2	5.5
地区別	廃校地区(旧切久保・旧重清北)	(57)	22.9	**45.6**	35.1	33.4	14.1	12.3	15.8	8.8	14.1	8.8	7.1
	現在校地区	(780)	13.3	35.7	44.3	28.7	**46.8**	24.5	17.7	14.5	13.2	5.0	5.4

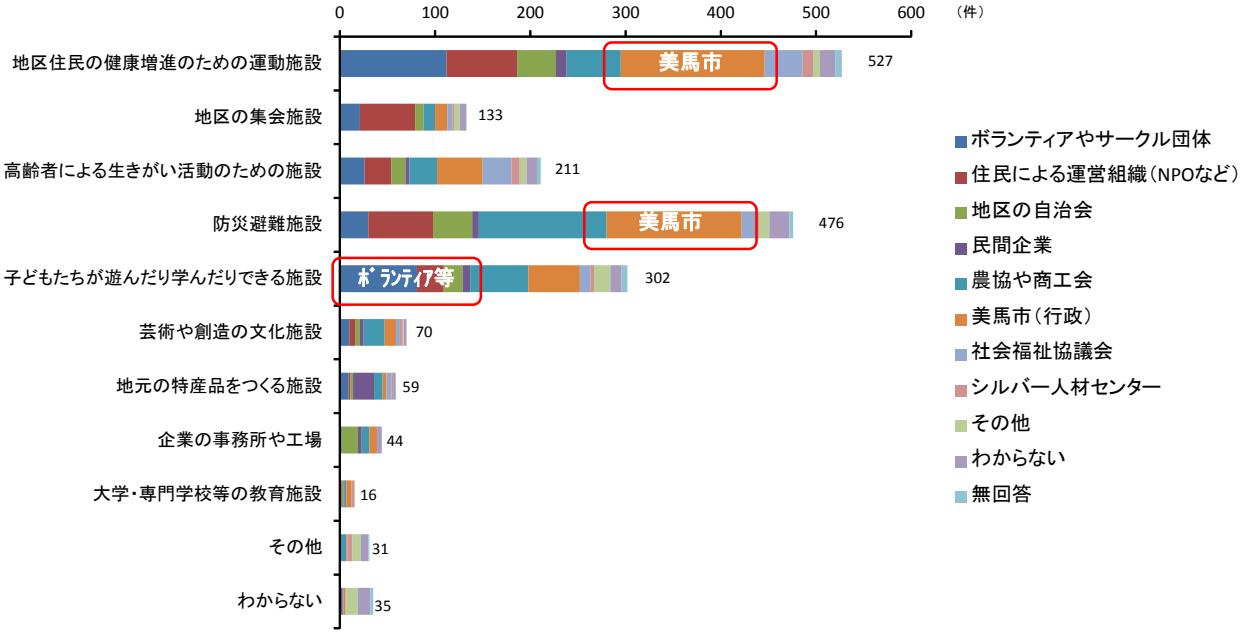
凡例：　1位　2位　（構成比：%）

エ　廃校後の体育館の利活用方法と担い手

体育館について、希望する利活用方法を第１希望から第３希望まで回答件数を積み上げてみると、最も多い意見は「地区住民の健康増進のための運動施設」で 527 件、次いで「防災避難施設」が 476 件、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 302 件などの順となっている。

それぞれ担い手に関しては、「地区住民の健康増進のための運動施設」の場合は美馬市、「防災避難施設」の場合も美馬市、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」の場合はボランティアやサークル団体による運営を、それぞれ望む意見が多くなっている。

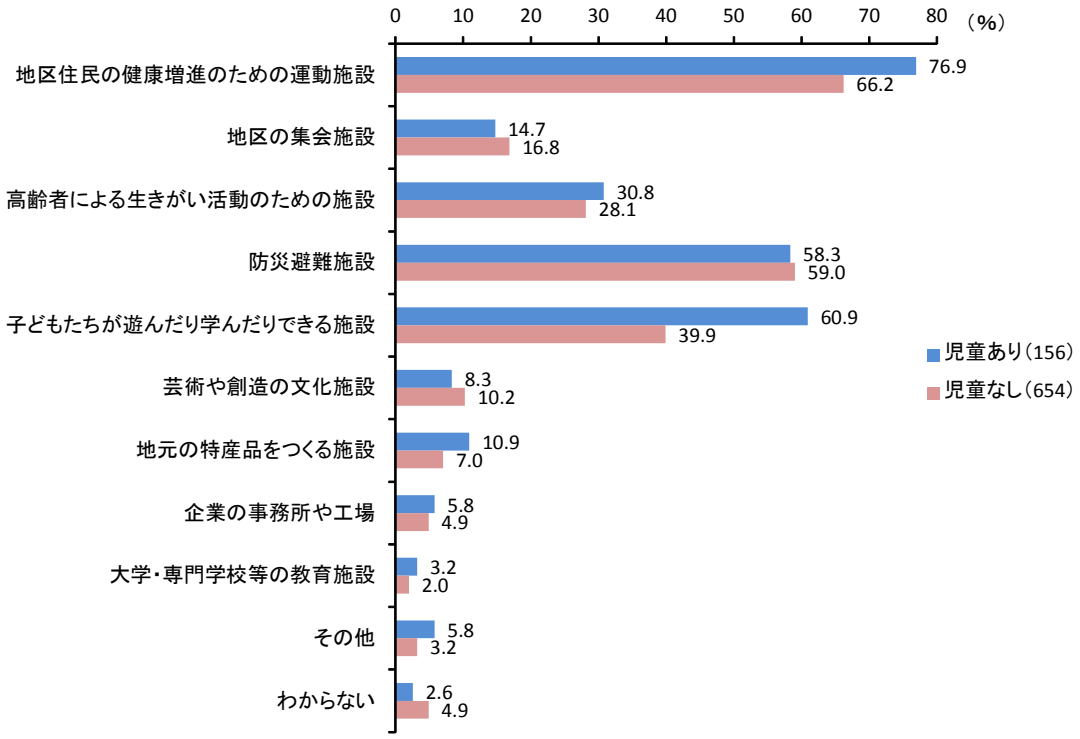
図表３－５５　廃校後の体育館の利活用方法と担い手



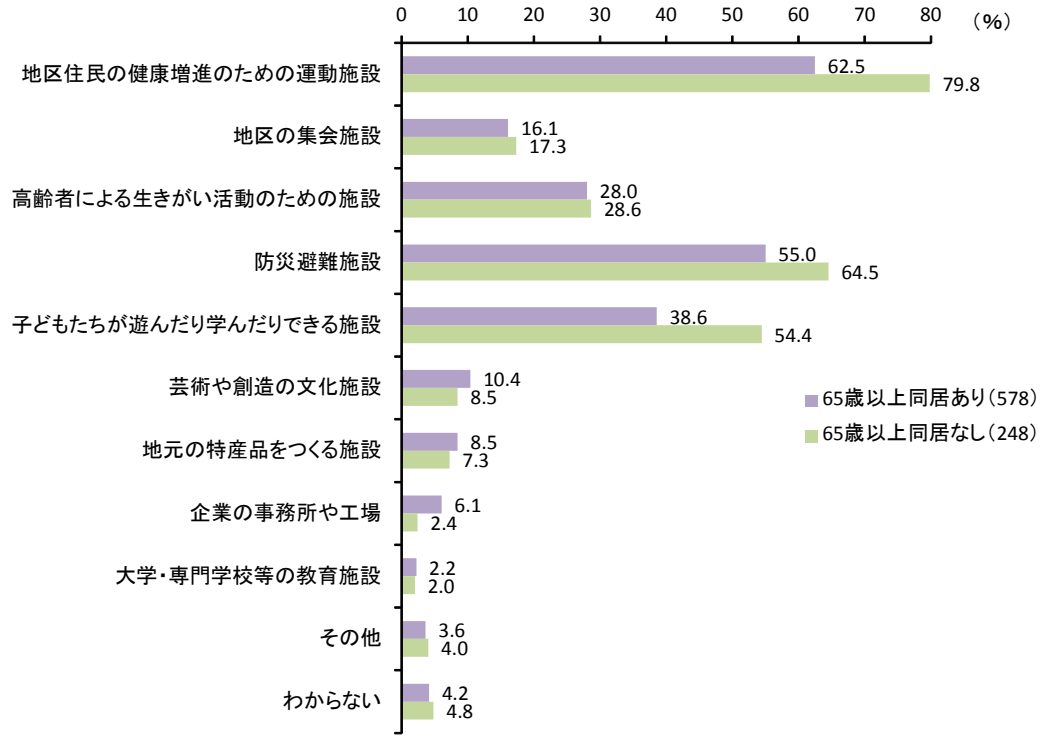
小学生以下の児童との同居の有無別にみると、同居している世帯の人の場合は、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 76.9%で最も多く、次いで「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」が 60.9%などの順となっている。

一方、65 歳以上の高齢者との同居の有無別にみると、同居していない世帯の人の場合も、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 79.8%で同様に最も高くなっているが、2 番目に高いのは「防災避難施設」で 64.5%となっており、体育館に関しては高齢者にための利用ニーズはあまり高くない。

図表３－５６　小学生以下の児童の有無別廃校後の体育館の利活用方法



図表３－５７　65 歳以上の高齢者との同居の有無別廃校後の体育館の利活用方法

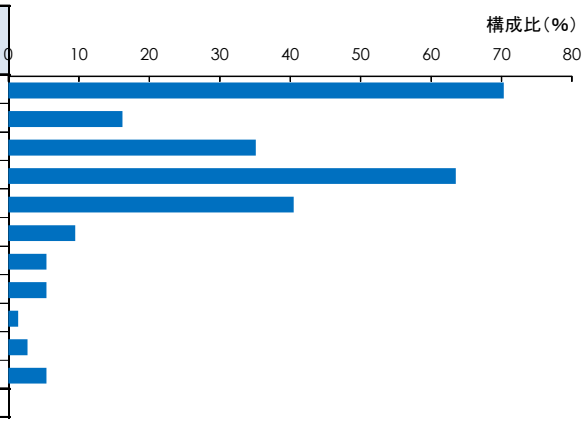


①　芝坂小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

芝坂小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 70.3%で最も多く、次いで「防災避難施設」が 63.5%などの順となっている。

図表３－５８　芝坂小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	52	70.3
2　地区の集会施設	12	16.2
3　高齢者による生きがい活動のための施設	26	35.1
4　防災避難施設	47	63.5
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	30	40.5
6　芸術や創造の文化施設	7	9.5
7　地元の特産品をつくる施設	4	5.4
8　企業の事務所や工場	4	5.4
9　大学･専門学校等の教育施設	1	1.4
10　その他	2	2.7
11　わからない	4	5.4
サンプル数	74	100.0

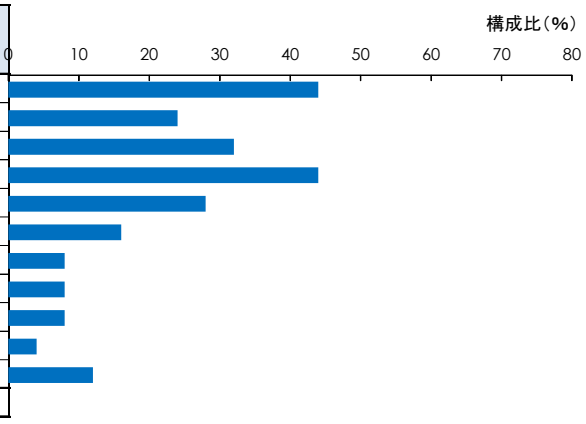


②　旧切久保小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

旧切久保小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」と「防災避難施設」が 44.0%で共に高くなっている。

図表３－５９　旧切久保小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	11	44.0
2　地区の集会施設	6	24.0
3　高齢者による生きがい活動のための施設	8	32.0
4　防災避難施設	11	44.0
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	7	28.0
6　芸術や創造の文化施設	4	16.0
7　地元の特産品をつくる施設	2	8.0
8　企業の事務所や工場	2	8.0
9　大学･専門学校等の教育施設	2	8.0
10　その他	1	4.0
11　わからない	3	12.0
サンプル数	25	100.0

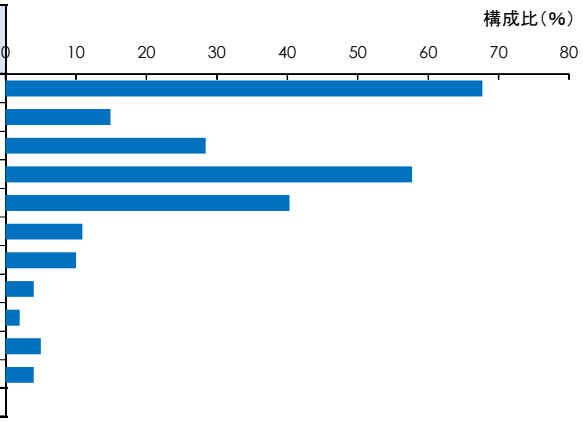


③　郡里小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

郡里小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 67.7%で最も多く、次いで「防災避難施設」が 57.7%などの順となっており、利活用の方向については芝坂小学校区と同じ傾向がみられる。

図表３－６０　郡里小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	136	67.7
2　地区の集会施設	30	14.9
3　高齢者による生きがい活動のための施設	57	28.4
4　防災避難施設	116	57.7
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	81	40.3
6　芸術や創造の文化施設	22	10.9
7　地元の特産品をつくる施設	20	10.0
8　企業の事務所や工場	8	4.0
9　大学･専門学校等の教育施設	4	2.0
10　その他	10	5.0
11　わからない	8	4.0
サンプル数	201	100.0

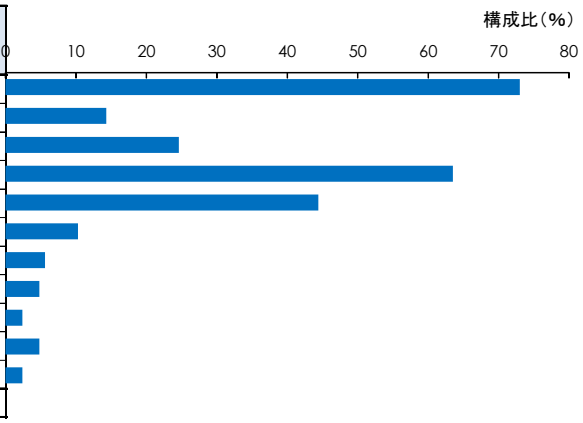


④　喜来小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

喜来小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 73.0%で最も多く、次いで「防災避難施設」が 63.5%などの順となっており、利活用の方向については芝坂小・郡里小学校区と同じ傾向がみられる。

図表３－６１　喜来小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	92	73.0
2　地区の集会施設	18	14.3
3　高齢者による生きがい活動のための施設	31	24.6
4　防災避難施設	80	63.5
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	56	44.4
6　芸術や創造の文化施設	13	10.3
7　地元の特産品をつくる施設	7	5.6
8　企業の事務所や工場	6	4.8
9　大学･専門学校等の教育施設	3	2.4
10　その他	6	4.8
11　わからない	3	2.4
サンプル数	126	100.0

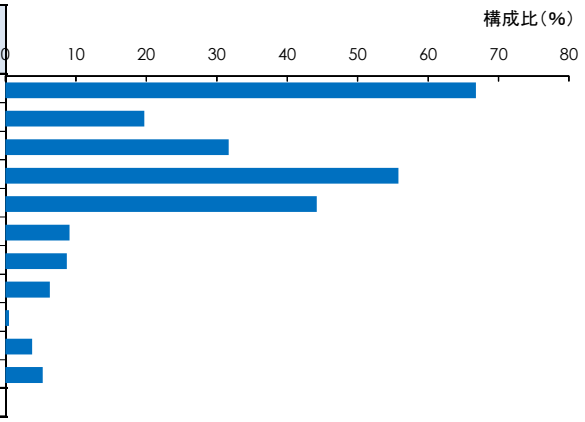


⑤　重清西小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

重清西小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 66.8%で最も多く、次いで「防災避難施設」が 55.8%などの順となっており、利活用の方向については芝坂小・郡里・喜来小学校区と同じ傾向がみられる。

図表３－６２　重清西小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	139	66.8
2　地区の集会施設	41	19.7
3　高齢者による生きがい活動のための施設	66	31.7
4　防災避難施設	116	55.8
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	92	44.2
6　芸術や創造の文化施設	19	9.1
7　地元の特産品をつくる施設	18	8.7
8　企業の事務所や工場	13	6.3
9　大学･専門学校等の教育施設	1	0.5
10　その他	8	3.8
11　わからない	11	5.3
サンプル数	208	100.0

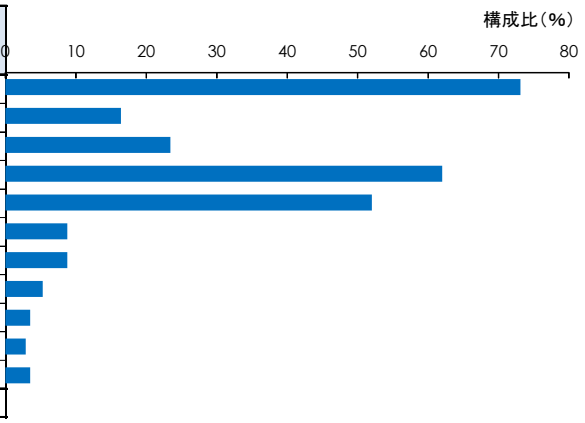


⑥　重清東小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

重清東小学校区では、「地区住民の健康増進のための運動施設」が 73.1%で最も多く、次いで「防災避難施設」が 62.0%などの順となっており、利活用の方向については芝坂小・郡里・喜来小・重清西小学校区と同じ傾向がみられる。

図表３－６３　重清東小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	125	73.1
2　地区の集会施設	28	16.4
3　高齢者による生きがい活動のための施設	40	23.4
4　防災避難施設	106	62.0
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	89	52.0
6　芸術や創造の文化施設	15	8.8
7　地元の特産品をつくる施設	15	8.8
8　企業の事務所や工場	9	5.3
9　大学･専門学校等の教育施設	6	3.5
10　その他	5	2.9
11　わからない	6	3.5
サンプル数	171	100.0



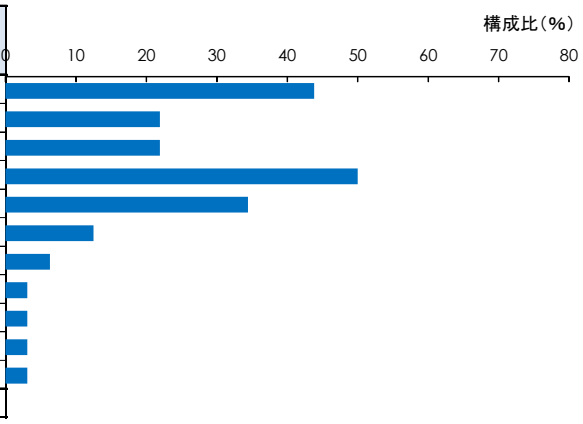
⑦　旧重清北小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

旧重清北小学校区では他の５校と異なり、「防災避難施設」が 50.0％で最も多く、次いで「地区住民の健康増進のための運動施設」が 43.8％などの順となっている。

旧重清北小学校の場合は廃校となった後、校舎内を改修し、既に健康増進のための運動機器類も配置されていることから、運動施設に対する希望はある程度満たされたことで、他地域と異なる傾向が表れたと推測することもできる。

図表３－６４　旧重清北小学校区における廃校後の体育館の利活用方法

項目	件数（人）	構成比（%）
1　地区住民の健康増進のための運動施設	14	43.8
2　地区の集会施設	7	21.9
3　高齢者による生きがい活動のための施設	7	21.9
4　防災避難施設	16	50.0
5　子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	11	34.4
6　芸術や創造の文化施設	4	12.5
7　地元の特産品をつくる施設	2	6.3
8　企業の事務所や工場	1	3.1
9　大学･専門学校等の教育施設	1	3.1
10　その他	1	3.1
11　わからない	1	3.1
サンプル数	32	100.0



図表３－６５　体育館利活用のまとめ

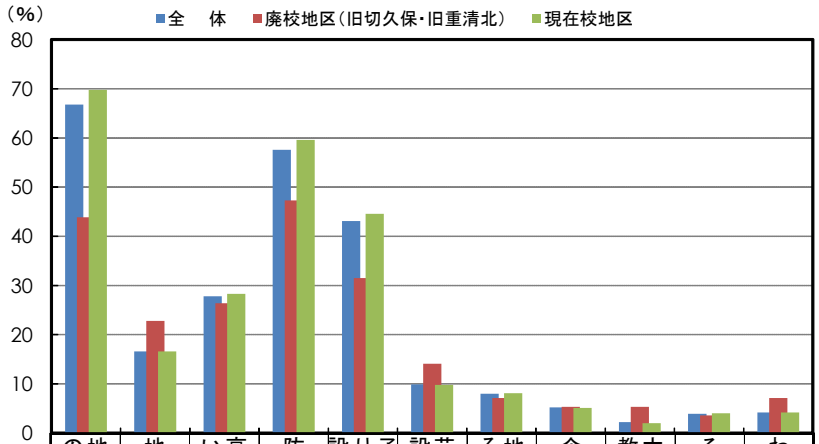
地区	１位		２位	
芝坂小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	70.3%	防災避難施設	63.5%
旧切久保小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	44.0%	防災避難施設	44.0%（１位）
郡里小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	67.7%	防災避難施設	57.7%
喜来小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	73.0%	防災避難施設	63.5%
重清西小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	66.8%	防災避難施設	55.8%
重清東小学校区	地区住民の健康増進のための運動施設	73.1%	防災避難施設	62.0%
旧重清北小学校区	防災避難施設	50.0%	地区住民の健康増進のための運動施設	43.8%

⑧　廃校地区と現在校地区別にみた体育館利活用の希望

廃校となった地区と現在校地区で比較すると、廃校地区では「地区住民の健康増進のための運動施設」が約 16 ポイント、「防災避難施設」については約 12 ポイント低くなっているが、この較差の要因が廃校によるものかどうかは判断できない。

一方、「子どもたちが遊んだり学んだりできる施設」について、現在校地区よりも約 13 ポイント低くなっているのは、校舎の利活用と同じ傾向である。

図表３－６６　廃校地区と現在校地区別廃校後の体育館の利活用方法



		（ ）内はサンプル数	地区住民の健康増進のための運動施設	地区の集会施設	高齢者による生きがい活動のための施設	防災避難施設	子どもたちが遊んだり学んだりできる施設	芸術や創造の文化施設	地元の特産品をつくる施設	企業の事務所や工場	大学・専門学校等の教育施設	その他	わからない
全　体		（856）	**66.8**	16.6	27.8	57.6	43.1	9.9	8.0	5.2	2.2	3.9	4.2
地区別	廃校地区（旧切久保・旧重清北）	（57）	43.9	22.8	26.4	**47.3**	31.5	14.1	7.1	5.3	5.3	3.6	7.1
	現在校地区	（780）	**69.8**	16.6	28.3	59.6	44.6	9.8	8.1	5.1	2.0	4.0	4.2

凡例：　1位　2位　（構成比：%）

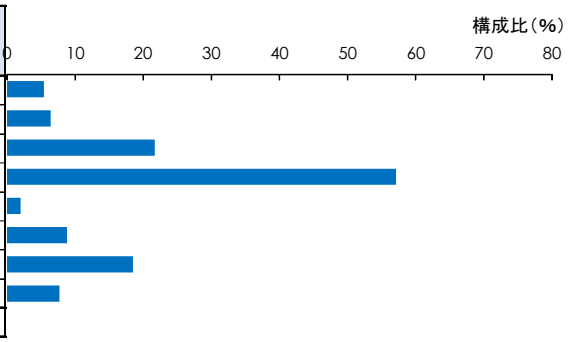
オ　施設運営等への関わり方

施設運営に関わりたいという回答は5.4%、従業員として働きたいという回答が6.4%、ボランティアとして手伝いたいという回答が 21.7%となっている。複数回答のため単純に合計はできないが、２割以上３割近い回答者が積極的な関与の姿勢を示している。

小学校区別にみると、「施設の運営に関わりたい」という積極的な意見は芝坂小学校区が6.8%で他の小学校区よりも少し高いものの各地区とも１割に満たず、地域間の較差はあまりみられない。また、芝坂小学校区の特徴として、「従業員として働きたい」という意見が9.5%と他地区よりも高いが、施設利活用面において特産品を作ったり、企業の誘致を望む意見が多かったことから、これらの利活用用途に照らして就労意欲も高いものと思われる。

図表３－６７　施設運営等への関わり方

項目	件数（人）	構成比（%）
1　施設の運営に関わりたい	46	5.4
2　従業員として働きたい	55	6.4
3　ボランティアとして手伝いたい	186	21.7
4　一利用者として利用したい	489	57.1
5　その他	17	2.0
6　あまり関わりたくない	75	8.8
7　わからない	158	18.5
無回答	66	7.7
サンプル数	856	100.0



図表３－６８　小学校区別施設運営等への関わり方

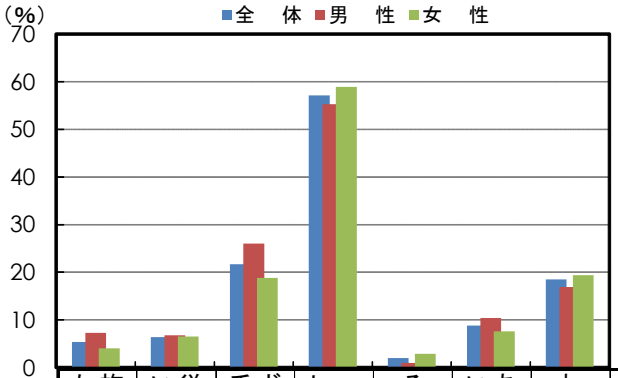
		施設の運営に関わりたい	従業員として働きたい	ボランティアとして手伝いたい	一利用者として利用したい	その他	あまり関わりたくない	わからない	無回答
全体	(856)	5.4	6.4	21.7	**57.1**	2.0	8.8	18.5	7.7
居住地区別	芝坂小学校区（旧切久保小学校区を除く） (74)	6.8	9.5	21.6	**64.9**	-	9.5	16.2	9.5
	旧切久保小学校区 (25)	4.0	4.0	16.0	**56.0**	4.0	8.0	20.0	12.0
	郡里小学校区 (201)	5.5	6.0	21.4	**54.2**	2.5	8.0	18.4	9.5
	喜来小学校区 (126)	4.0	6.3	27.0	**58.7**	2.4	12.7	16.7	7.1
	重清西小学校区 (208)	5.8	6.7	22.6	**60.1**	2.4	6.7	18.8	5.3
	重清東小学校区（旧重清北小学校区を除く） (171)	5.8	7.6	19.3	**57.3**	1.2	9.9	17.0	4.1
	旧重清北小学校区 (32)	3.1	-	21.9	**56.3**	3.1	6.3	25.0	9.4

凡例：1位　2位　（構成比：%）

男女別にみても、運営への参加意向にほとんど違いがみられない。

年代別にみると、いずれの年齢層も「一利用者として利用したい」という消費者意識が強いものの、「施設の運営に関わりたい」という回答は 20 歳代と 50 歳代でともに約 1 割、また「従業員として働きたい」という回答は 30～40 歳代で多く、ともに約 1 割みられる。

図表３－６９　男女別施設運営等への関わり方



		( )内はサンプル数	施設の運営に関わりたい	従業員として働きたい	ボランティアとして手伝いたい	一利用者として利用したい	その他	あまり関わりたくない	わからない	無回答
全　体		(856)	5.4	6.4	21.7	**57.1**	2.0	8.8	18.5	7.7
性別	男性	(385)	7.3	6.8	26.0	**55.3**	1.0	10.4	16.9	7.3
性別	女性	(448)	4.0	6.5	18.8	**58.9**	2.9	7.6	19.4	7.1

凡例：1位　2位　（構成比：%）

図表３－７０　年代別施設運営等への関わり方

		( )内はサンプル数	施設の運営に関わりたい	従業員として働きたい	ボランティアとして手伝いたい	一利用者として利用したい	その他	あまり関わりたくない	わからない	無回答
全　体		(856)	5.4	6.4	21.7	**57.1**	2.0	8.8	18.5	7.7
年齢別	20歳代	(37)	10.8	8.1	18.9	**43.2**	-	10.8	18.9	2.7
年齢別	30歳代	(79)	2.5	10.1	15.2	**73.4**	-	5.1	17.7	3.8
年齢別	40歳代	(91)	4.4	12.1	18.7	**61.5**	-	6.6	19.8	2.2
年齢別	50歳代	(134)	9.0	9.0	23.9	**67.9**	1.5	6.0	16.4	3.0
年齢別	60歳代	(229)	6.6	6.6	29.7	**59.4**	0.9	10.9	14.8	3.5
年齢別	70歳代	(164)	4.3	2.4	22.6	**53.7**	3.0	11.0	15.2	13.4
年齢別	80歳以上	(100)	2.0	2.0	11.0	**32.0**	8.0	10.0	**32.0**	20.0

凡例：1位　2位　（構成比：%）

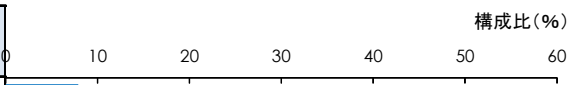
カ　施設利活用のための検討会への参加意向

今後施設の利活用に関する検討会があった場合の参加の意思は、「積極的に参加したい」という回答が 7.9%、「テーマによっては参加したい」が 49.5%で、合わせると 57.4%が検討会への参加の意向を示している。

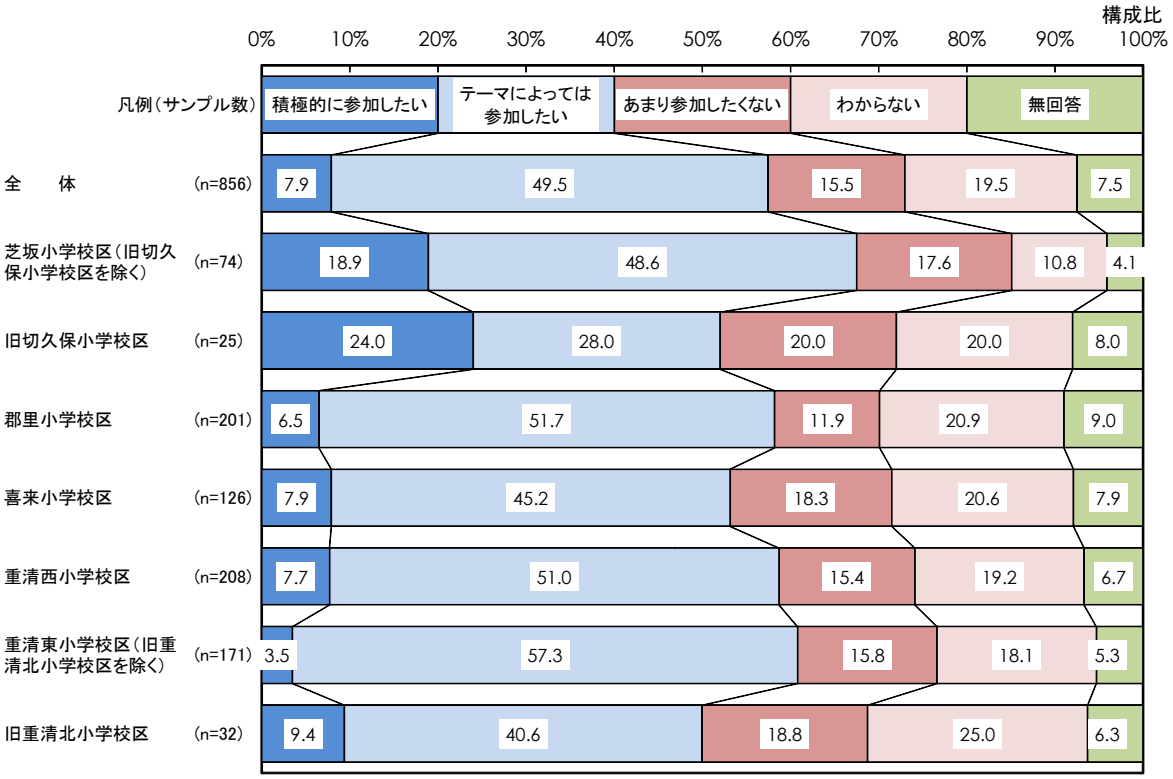
小学校区別にみると、「積極的に参加したい」と「テーマによっては参加したい」を合わせた割合は、芝坂小学校区が最も高く 67.5%にのぼるほか、旧切久保小学校区を除く 5 つの地区も 5 割以上となっている。また、旧切久保小学校区も「積極的に参加したい」という積極的な意見は 24.0%でどの地区よりも高く、どの地区も施設の利活用に対しては強い関心がみられる。

図表３－７１　施設の利活用のための検討会への参加意向

項目	件数（人）	構成比（%）
1　積極的に参加したい	68	7.9
2　テーマによっては参加したい	424	49.5
3　あまり参加したくない	133	15.5
4　わからない	167	19.5
無回答	64	7.5
サンプル数	856	100.0



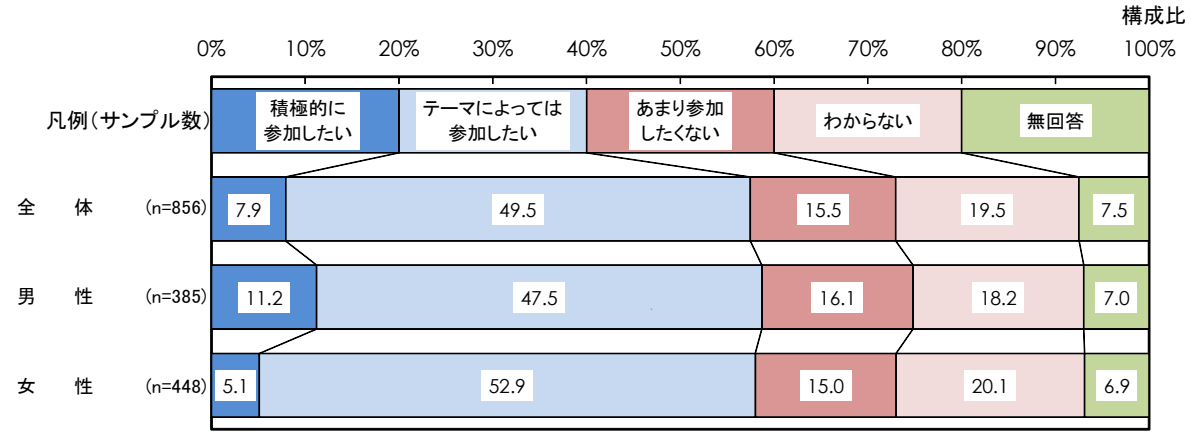
図表３－７２　小学校区別施設の利活用のための検討会への参加意向



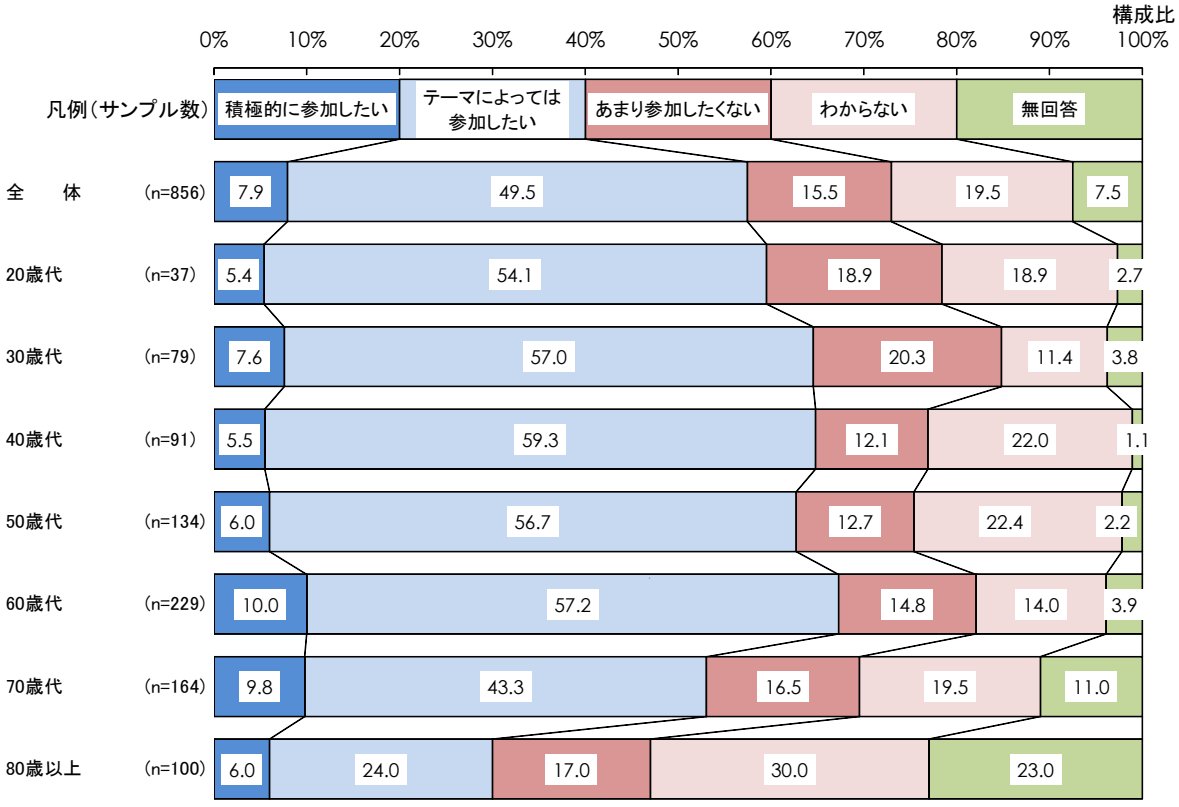
男女別にみると、「積極的に参加したい」という回答は男性で 11.2%、女性で 5.1%で男性の方が約 5 ポイント高くなっている。

年代別にみると、60～70 歳代において「積極的に参加したい」という回答がそれぞれ約 1 割みられ、これに「テーマによっては参加したい」という回答も加えると、60 歳代では 67.2%にものぼる。したがって、定年退職直後の年齢層の人材に対して、期待が寄せられる。

図表３－７３　男女別施設の利活用のための検討会への参加意向



図表３－７４　年代別施設の利活用のための検討会への参加意向



キ　施設利活用に対する具体的なアイデア

施設の利活用に対する具体的なアイデアとして、以下のような意見が出された。

図表３－７５　施設利活用に対する具体的なアイデア

施設利用の用途	活用イメージ
地区住民の健康増進のための運動施設	○子ども・大人のスポーツ施設として ○健康体操（ラジオ体操、阿波踊り体操、太極拳等）の普及 ○公園
地区の集会施設	○地域活動拠点 ○集会場がないので集会場がほしい
高齢者による生きがい活動のための施設	○老人の活動拠点及び交流施設 ○高齢者と子どもがふれあいながら学習やスポーツをする場所 ○高齢者のサロン（たまり場）
防災避難施設	○災害時の避難場所 ○避難訓練実施場所 ○防災用具保管場所 ○発電燃料・食糧備蓄場所
子どもが遊んだり学んだりできる施設	○児童館 ○保育所 ○幼稚園 ○放課後、高齢者とふれあいながらあずかってくれる施設 ○不登校児受入所 ○サマースクール
芸術や創造の文化活動拠点	○文化センター ○図書館 ○映画上映・コンサート会場 ○各種教室（陶芸教室、料理教室、パソコン教室など）
地元の特産品を作る施設	○美馬特産品の販売など ○老人でも手作業で収入が得られるようなものがあるとよい ○地元の特産品を活かしたレストランのようなもの
企業の事務所や工場	○美馬市民の若者雇用の場 ○一般企業誘致 ○女性のための職場（コールセンター）誘致
大学・専門学校等の教育施設	○介護福祉士の資格取得ができる施設
その他（賑わい・集客交流、福祉・健康など）	○フリーマーケットや日曜市などの会場 ○地域活性化の情報発信の基地 ○宿泊施設（観光客向け）、体験旅行の受入 ○福祉施設（特別養護老人ホーム、ケアハウスなど） ○健康診断、子どもの定期検診、予防接種の会場 ○グラウンドを改修し駐車場確保 ○民間へ売却

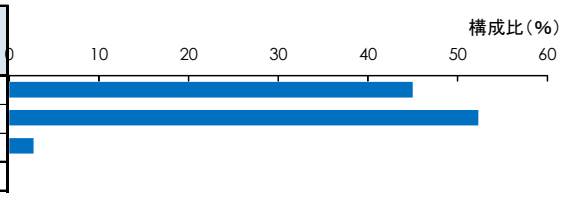
(5) 回答者の性別・年齢などの基本属性

ア　性別

回答者の性別は「男性」が 45.0%、「女性」が 52.3%となっている。

図表３－７６　性別

項目	件数（人）	構成比（%）
1　男性	385	45.0
2　女性	448	52.3
無回答	23	2.7
サンプル数	856	100.0

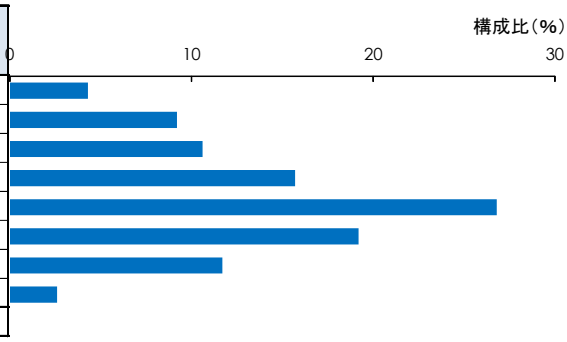


イ　年齢

回答者の年齢層は「60 歳代」が最も多く 26.8%、次いで「70 歳代」が 19.2%、「50 歳代」が 15.7%などの順となっている。

図表３－７７　年齢

項目	件数（人）	構成比（%）
1　20歳代	37	4.3
2　30歳代	79	9.2
3　40歳代	91	10.6
4　50歳代	134	15.7
5　60歳代	229	26.8
6　70歳代	164	19.2
7　80歳以上	100	11.7
無回答	22	2.6
サンプル数	856	100.0

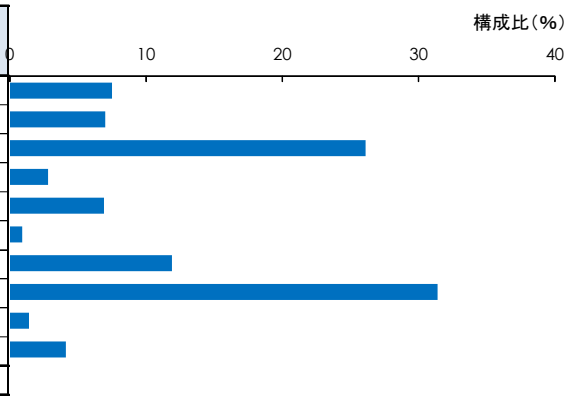


ウ　職業

回答者の職業は「無職」が最も多く 31.4%、次いで「会社員・公務員・団体職員」が 26.1%、「専業主婦（夫）、家事従事」が 11.9%などの順となっている。

図表３－７８　職業

項目	件数（人）	構成比（%）
1　農林漁業(専業)	64	7.5
2　商工業自営	60	7.0
3　会社員･公務員･団体職員	223	26.1
4　専門職(医師など)	24	2.8
5　パート･アルバイト(学生を除く)	59	6.9
6　学生	8	0.9
7　専業主婦(夫)、家事従事	102	11.9
8　無職	269	31.4
9　その他	12	1.4
無回答	35	4.1
サンプル数	856	100.0



エ　家族構成

家族構成は「親と子の世帯」が最も多く 40.0%、次いで「夫婦のみ世帯」が 25.5%、「親・子・孫などの世帯（三世代世帯以上の同居）」が 21.0%となっている。

図表３－７９　家族構成

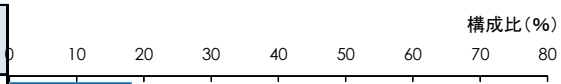
項目	件数（人）	構成比（%）
1　単身世帯	72	8.4
2　夫婦のみ世帯	218	25.5
3　親と子の世帯	342	40.0
4　親・子・孫などの世帯（三世代以上の同居）	180	21.0
5　その他	20	2.3
無回答	24	2.8
サンプル数	856	100.0

オ　小学生以下の児童の有無

「小学生以下の児童と同居」している人は 18.2%となっている。

図表３－８０　小学生以下の児童の有無

項目	件数（人）	構成比（%）
1　有	156	18.2
2　無	654	76.4
無回答	46	5.4
サンプル数	856	100.0

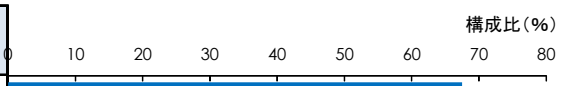


カ　65 歳以上の同居者の有無

「65 歳以上の高齢者と同居」している人（回答者自身が 65 歳以上の場合も含む）の割合は 67.5%で、半数を超えている。

図表３－８１　65 歳以上の同居者の有無

項目	件数（人）	構成比（%）
1　有	578	67.5
2　無	248	29.0
無回答	30	3.5
サンプル数	856	100.0



２　住民団体の活動及び意向

(1) 調査の概要

ア　目的

美馬市の休・廃校施設の有効利活用を図るため、市内の住民団体の活動実態や今後の活動意向についてアンケート調査、ヒアリング調査を実施した。

イ　調査項目

- 団体属性
- 活動場所
- 学校施設の利用

ウ　調査方法

①　アンケート調査

郵送及び返信用封筒による郵送（※返送先は美馬市教育委員会）

②　ヒアリング調査

団体代表への訪問聴取調査

(2) 回答団体の状況

アンケート調査は、下記の 23 団体から回答を得た。

図表３－８２　回答団体の状況

区分	団体名	設立年度	所在地
1	美馬市文化協会	平成 17 年	－
2	美馬市ＰＴＡ連合会	－	－
3	社会福祉法人美馬市社会福祉協議会	平成 17 年	脇町大字脇町
4	美馬市身体障がい者連合会	平成 17 年	脇町大字脇町
5	美馬市老人クラブ連合会	平成 17 年	脇町大字脇町
6	美馬市手をつなぐ育成会	平成 17 年	脇町大字脇町
7	大谷校区実行委員会	平成 21 年	脇町西大谷
8	特定非営利活動法人 うだつコミュニティスポーツクラブ	平成 15 年	脇町新町
9	山人の里運営協議会	平成 23 年	美馬町字狙ケ内
10	美馬市体育協会	平成 17 年	美馬町字天神
11	特定非営利活動法人 美馬体験交流の会	平成 16 年	美馬町田辺
12	スポーツクラブ美馬	平成 16 年	美馬町字中東原
13	美馬市子ども会連合会	平成 17 年	美馬町字天神
14	特定非営利活動法人 郡里交流会	平成 24 年	美馬町字寺ノ下
15	特定非営利活動法人 美馬の里	平成 14 年	美馬町字谷ヨリ西
16	美馬女子ソフトボール部　スポーツ少年団	平成 19 年	美馬町字中沼田
17	特定非営利活動法人 美馬友遊クラブ	－	美馬町字中沼田
18	美馬市スポーツ推進委員会	平成 16 年	美馬町字天神
19	重北校区里帰り運動会実行委員会	平成 20 年	美馬町字狙ヶ内
20	美馬市食生活改善推進協議会	平成 19 年	穴吹町穴吹字九反地
21	初草ふれあい館運営協議会	平成 21 年	穴吹町口山字初草
22	穴吹陶芸教室	昭和 50 年	穴吹町口山字初草
23	特定非営利活動法人 こやだいら	平成-	木屋平字川井

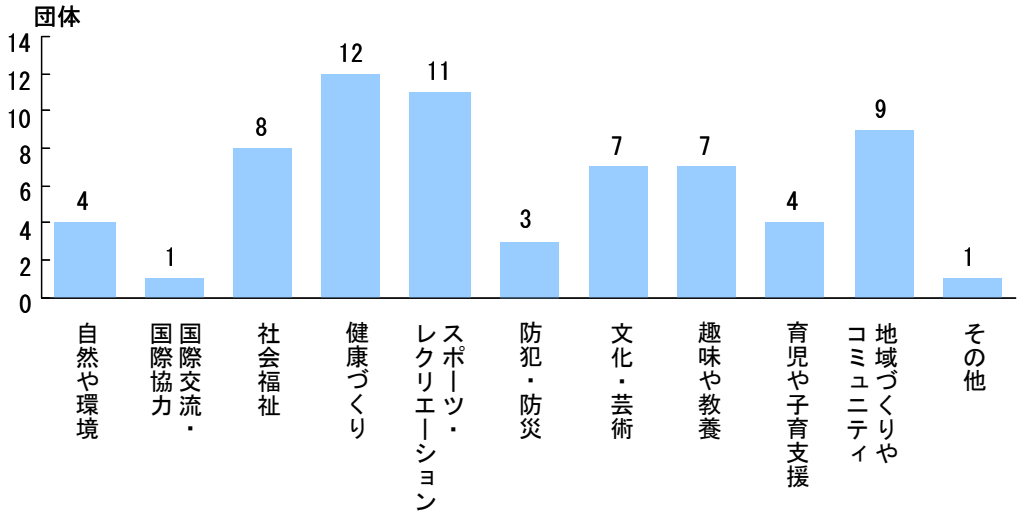
(3) 住民アンケートの調査結果

ア　活動の状況

各回答団体の活動内容について調査した。各団体とも、活動目的に応じ、多様な分野での活動を展開していることから、その他を含む 10 分野の活動内容を設定して、複数回答方式で回答を得た。活動内容として特定の１分野だけとあげたのは５団体のみで、残りの 18 団体は複数の活動分野をあげている。平均すると１団体当たり３分野の活動を実施している状況にある。

活動内容として最も多かったのは、「健康づくりに関する活動」の 12 団体（52.2%）で、半数の団体で実施している。次いで「スポーツ・レクリエーションに関する活動」が 11 団体（47.8%）と実施する団体が多く、住民の身近な健康づくりやスポーツ等の活動に取り組む団体が多くみられた。また、「地域づくりやコミュニティに関する活動」も９団体（39.1%）あり、地域社会に根ざした活動を実施する団体も多かった。

図表３－８３　団体の活動状況（ＭＡ）



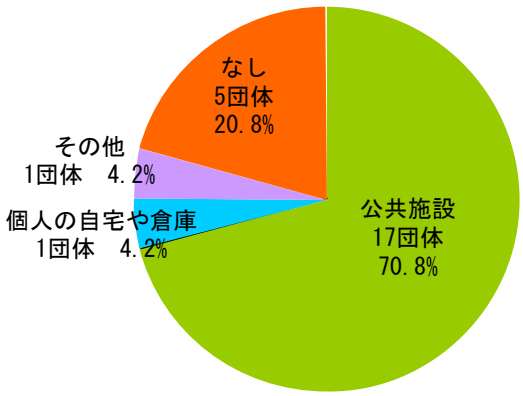
イ　活動場所の状況

①　専有場所の状況

各団体の活動拠点（事務所、備品・機材等の保管、定期活動等）として、専有して利用している施設、スペースの確保の状況について把握した。何らかの活動拠点を確保できている団体は 19 団体（82.6%）、確保できていない団体は５団体（20.8%）となっている。

専有場所の内訳をみると、「公共施設」を拠点している団体が 17 団体と最も多くなっている。また、「個人の自宅や倉庫」と「その他」をあげた団体がそれぞれ 1 団体となっている。「民間施設」を利用している団体はみられなかった。

図表３－８４　専有場所の状況（ＭＡ）



② 主たる活動場所

前項のとおり、多くの団体では複数の分野での活動を展開しており、活動内容に合わせて、多様な活動場所が選択されている。主たる活動場所としては、公共のコミュニティ施設、スポーツ施設、公園等が多くなっている。学校施設の利用については、小学校・中学校の利用がみられ、なかでも体育館、運動場といったスポーツ系施設の利用が多くなっている。

図表３－８５　回答団体の主たる活動場所

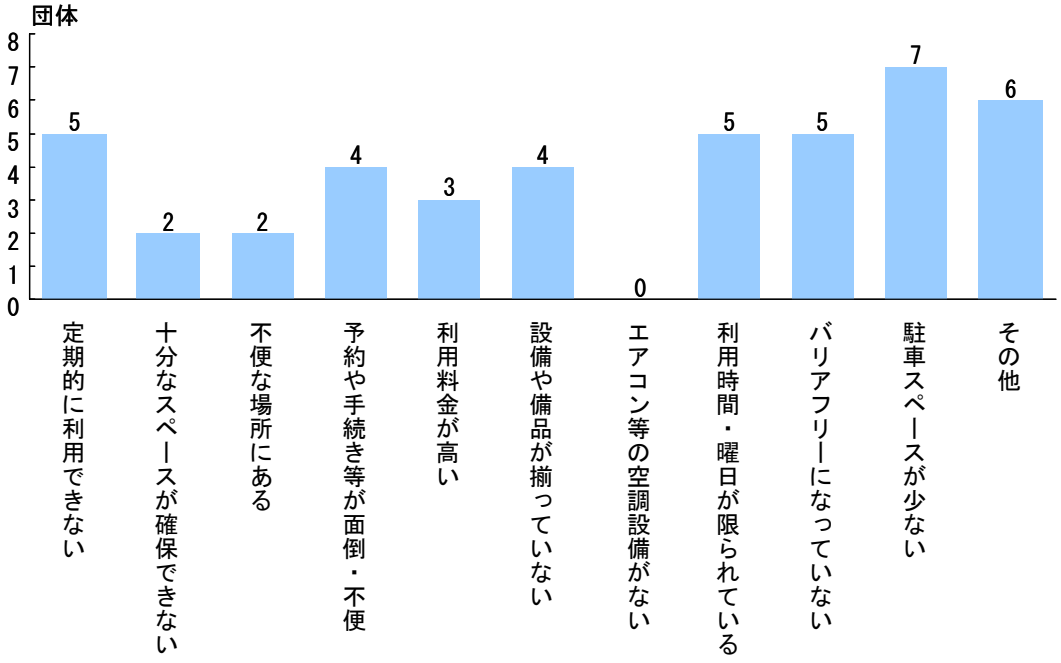
団体名	活動名	活動場所
山人の里運営協議会	宿泊体験交流活動	旧重清北校区
美馬市体育協会	野球・ソフト	脇中、江中、穴中グラウンド
	卓球・バレー	アリーナ、スポセン、江中
	柔剣道	脇中武道場
	パークゴルフ	四国三郎の郷
	グラウンドゴルフ・ゲートボール	河川敷・グラウンド・うだつアリーナグラウンド
美馬市食生活改善推進協議会	ヘルスメイト研修会	穴吹農改センター
	定例健康教室	美馬福祉センター
初草ふれあい館運営協議会	初草小学校跡地を利用した各種イベント	初草ふれあい館
	初草ふれあい館の管理運営	初草ふれあい館
美馬市子ども会連合会	総会、理事会	うだつアリーナ会議室
	夏休み遠足	市外
	ドッジボール大会	穴吹スポーツセンター
特定非営利活動法人郡里交流会	寺町案内	郡里廃寺跡と４か寺
	絵画等展示	美馬市寺町防災交流センター
	公園整備	寺町公園、寺町西花壇
	独居老人等見廻り	各独居老人宅
	イベントの開催	寺町公園、神社、防災交流センター
穴吹陶芸教室	陶芸作品創作	旧初草小理科室
	ボランティア	小星園
特定非営利活動法人美馬の里	国際交流事業	美馬市内の会員宅等
	日本語教室	美馬文化会館、脇町老人福祉センター
	日本語指導ボランティア養成講座開催	美馬文化会館
	日本語指導派遣	郡里小学校、民間企業
美馬女子ソフトボール部　スポーツ少年団	ソフトボール練習	重清東小学校グラウンド・体育館
	サポーターズ会役員会	美馬町福祉センター
	野球、その他の団体	各小学校、市民グラウンド等
特定非営利活動法人美馬友遊クラブ	スポーツ指導	重清東小学校、美馬中学校
	スポーツ交流	美馬中学校、ふれあい広場
特定非営利活動法人こやだいら	過疎地有償運送事業	木屋平地域内外
	高齢者生活支援事業	木屋平地域内外
	農林業作業支援事業	木屋平地域内外
	防火活動事業	木屋平地域内外
	地域おこし事業	木屋平地域内外
特定非営利活動法人うだつコミュニティスポーツクラブ	スクール活動（10 種目）	うだつアリーナ、老人福祉センター
	サークル活動（6 種目）	うだつアリーナ、江南小、脇町小、アリーナ新町公園
	スポーツイベント	うだつアリーナ、アリーナ前公園
重北校区里帰り運動会実行委員会	里帰り運動会	旧重清北小グランド
美馬市身体障がい者連合会	カローリング	うだつアリーナ、他体育館
	ゲートボール	市内各ゲートボール場
	グラウンドゴルフ	市内グランドゴルフ場
	フライングディスク	うだつアリーナ、他体育館
美馬市老人クラブ連合会	体育大会	うだつアリーナ
	各種スポーツ大会	うだつアリーナ芝生公園､脇町スパーク脇ゲート

団体名	活動名	活動場所
美馬市老人クラブ連合会		ボール場、脇町曽江谷マレットゴルフ場
	老人大学院	ザ・ディスティーノ
	パソコンサロン	脇町庁舎２階会議室
	役員会例会	脇町福祉センター
美馬市手をつなぐ育成会	農作業	個人所有農地
	料理教室	穴吹農改センター調理自習室
	障がい者チャレンジスポーツ教室	うだつアリーナ
特定非営利活動法人美馬体験交流の会	指定管理による運営	水辺の楽校
	体験農園	水辺の楽校周辺
	竹林の整備	ふれあい広場周辺
	旧青木邸の維持	旧青木邸
スポーツクラブ美馬	スポーツ教室・文化的活動	美馬福祉センター
	スポーツ教室、スポーツ大会	美馬中学校体育館
	スポーツ大会	吉野川河畔ふれあい広場
	スポーツ教室、イベント	美馬市民グラウンド
	スポーツ教室	各小学校（郡里、喜来、重清東）の体育館

③　活動場所に係る問題点・課題

現在の活動場所の問題点・課題については、「駐車スペースが少ない」を７団体（30.4%）があげ、最も多くなっている。市民の移動手段として自動車の利用が定着しており、活動場所における駐車場確保のニーズが高い現状にある。次いで、「定期的に利用できない」、「利用時間・曜日が限られている」、「バリアフリーになっていない」をそれぞれ５団体（22.7%）があげている。定期利用あるいは特定の日時への利用ニーズが高い現状がうかがえる。また、高齢化を背景に、活動のメンバーや参加者のなかに高齢者が多く含まれることから、施設のバリアフリー化に対するニーズ・関心が高い現状もうかがえる。

図表３－８６　活動場所に係る問題点・課題（ＭＡ）



(4) 学校施設の利活用

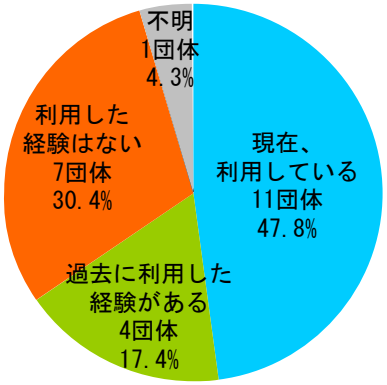
ア　利活用の経験

前項でみたとおり、各団体の具体的な活動場所のなかに、学校施設（体育館、運動場等）があげられていた。

各団体がこれまで学校施設を利用した経験があるかどうかについては、「現在、利用している」が 11 団体（47.8%）とほぼ半数を占めている。また、現在は利用していないが、「過去に利用した経験がある」は 4 団体（17.4%）となっており、両者を合わせると６割以上の団体で学校施設の利用実績を有している。

これに対して、「利用した経験はない」は 7 団体（30.4%）となっている。

図表３－８７　学校施設の利活用経験



イ　学校施設を利活用した主たる活動

学校施設を利用した団体の主たる活動をみると、スポーツ活動、生きがい活動等のほかに、地域コミュニティ活動（防災活動、交流活動等）も実施されている。特に既に廃校となっている旧初草小学校、旧重清北小学校等での活動が多くなっている。

図表３－８８　学校施設を利活用した主たる活動の内容

団体名	活動名	活動場所
山人の里運営協議会	三頭廻り踊り	旧重清北小学校
	里帰り運動	旧重清北小学校
	いきいきサロン	旧重清北小学校
初草ふれあい館運営協議会	初草小学校跡地を利用した各種イベント	初草ふれあい館（旧初草小学校内）
	初草ふれあい館の管理運営	初草ふれあい館（旧初草小学校内）
美馬市子ども会連合会	ドッジボール大会	穴吹小学校体育館
穴吹陶芸教室	陶芸活動	旧初草小学校の理科室
特定非営利活動法人　こやだいら	防火活動事業	木屋平中学校グラウンド、体育館
特定非営利活動法人　うだつコミュニティスポーツクラブ	サークル活動（ソフトバレー）	江南小体育館、脇町小体育館
	スクール活動・子どもスポーツ教室	脇町小体育館
美馬市社会福祉協議会	地域のいきいきサロン	旧重清北小学校、旧江原東小学校
美馬市身体障がい者連合会	カローリング	郡里小学校
美馬市老人クラブ連合会	初草老人クラブ	旧初草小学校体育館
	カローリングクラブ	旧初草小学校体育館
大谷校区実行委員会	三世代交流会	旧大谷小学校

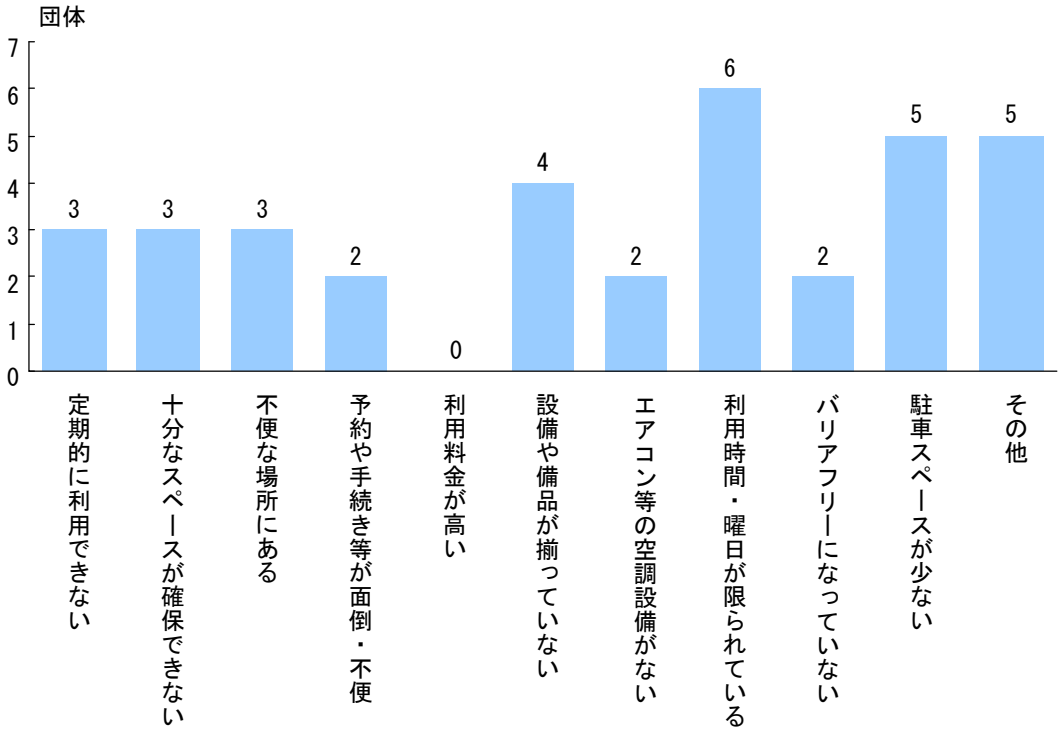
（注）図表 3-85 に掲載の活動は除く

ウ　学校施設の利活用に係る問題点・課題

学校施設の利活用に係る問題点・課題については、「利用時間・曜日が限られている」が 6 団体（26.1%）と最も多く、次いで、「駐車スペースが少ない」が 5 団体（21.7%）、「設備や備品が揃っていない」が 4 団体（17.4%）となっている。

また、前掲の「現在利用している活動場所に係る問題点・課題」では回答団体がなかった「エアコン等の空調設備がない」を 2 団体（8.7%）があげている。

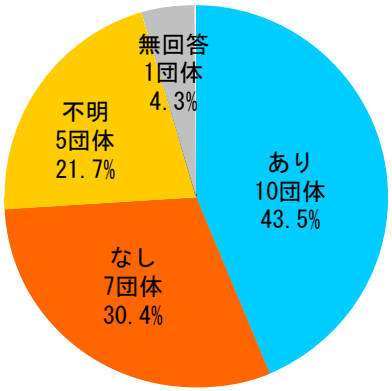
図表３－８９　学校施設の利活用に係る問題点・課題



エ　今後の学校施設の利活用意向

今後、市内の休・廃校施設の利活用意向については、「あり」と回答した団体が 10 団体（43.5%）、「なし」と回答した団体が 7 団体（30.4%）となっている。また、今後の利活用が不明と回答した団体は 5 団体（21.7%）となっている。

図表３－９０　今後の学校施設の利活用意向



(5) 今後の学校施設の有効利活用に向けた意向

各団体から回答のあった今後の有効利活用に向けた意向等は下記のとおりとなっている。

図表３－９１　今後の学校施設の有効利活用について（自由記入）

団体名	自由記入
山人の里運営協議会	施設整備に予算は絶対必要だが、運営や実際の事業実施には「人」（雇用者）が重要であり、それに対する措置（財政支援）も必要である。中途半端な取組に終わらないよう市内外から、やる気のある人の雇用を期間限定ででも行うべき。自分の生活費を稼ぎながら、こうした活動に取り組むことはかなり高負担となり、長く続かないし、希望・展望も持てない。やる気のある地域には集中的に予算を投入すべきと思う。
美馬市文化協会	文化協会加入団体は 93 団体、スポーツクラブ等を入れると 100 数十団体になるので、廃校施設の利用は多いと思われ、スポーツ関係であればグランド利用も多いのではないか。
美馬市子ども会連合会	市子ども会連合会では特段学校施設の利用はありませんが、各単位子ども会では主に学校が活動場所になっていると思います。（例：岩倉子ども育成会・風づくり→小学校体育館で）美馬地区には市子連加入の子ども会はありませんが、休・廃校する際には、引き続き子ども達が遊べる環境を残してあげて欲しいと思います。
美馬女子ソフトボール部　スポーツ少年団	各小学校、市民グランド等でそれぞれのスポーツ少年団が活動しています。しかし、郡里、重西は、芝生の関係で使用できない競技があり、未使用状態です。また、各小学校が、夜間照明が無く、指導者が平日勤務後からの活動になるので苦労しています。また、合宿所を兼ねれる施設があればと思います。北校、切久保では、グランドがせまい、設備が不十分、冬場の交通等に問題があり、スポ少では使用しにくい現状です。県外チームとの交流も盛んになってきている今、ぜひほしい施設です。
特定非営利活動法人美馬友遊クラブ	毎年、美馬中学校でソフトボールの交流試合を企画し、来年で 14 回を迎えます。県内外から 20 チーム、500 人前後が来町し、約 200 人ぐらいが宿泊してくれますが、美馬温泉がない現在ブルーヴィラ、油屋、その他近隣のビジネスホテルに泊まっています。この宿泊客を休校施設に泊められる事ができればいいと思います。
特定非営利活動法人こやだいら	地域には、特徴や特性があるので住民ニーズにより休校や施設等活用すべきと思われる。
特定非営利活動法人うだつコミュニティスポーツクラブ	本クラブは「いつでも、どこでも、だれでも楽しく、いい汗かいてみんな健康」をスローガンに、地域に根ざしたコミュニケーションを深める生涯スポーツの環境づくりを目的に取り組んでいます。休校施設を活用して、スポーツ（健康運動）を通じて地域住民の課題を解決する。少子高齢化、中高年者の糖尿病、痴ほう症の予防をし、健康寿命を伸ばし寝たきりの期間を短くし、医療費の削減につなげる。
美馬市スポーツ推進委員会	美馬市スポーツ推進委員 37 名（脇町 16、美馬 11、穴吹８、木屋平２）従来の体育指導委員（昭和 36 年スポーツ振興法）は「スポーツの実技の指導、その他スポーツに関する助言を行う」であったが、平成 23 年スポーツ基本法により「スポーツ推進委員」と変更になり、「スポーツ推進の連絡調整並びに実技指導」の役割が加わり、今までのように市のお手伝い的なものやスポーツ指導助言だけでなく、事業の企画運営にとどまらず、地域住民の健康や体力の実態を把握した上での事業展開が必要となり、総合型地域スポーツクラブの創設、育成また運営への参画や地域住民や行政・スポーツ団体等のコーディネーターとして期待されています。さらに、役割の重要性から「熱意と力があり地域において効果的に連絡調整を行う」ことが出来、地域コミュニティーの活性化など、スポーツを通じた「まちづくり」そして「健康づくり」と医療費削減などに貢献できる活動の推進が期待されています。
美馬市身体障がい者連合会	バリアフリー改修が必要な校舎は改修していただき、身体に障がいを有する住民にとっても、安心して安全に参加利用できるようにしていただきたい。
美馬市手をつなぐ育成会	知的障がい者等の働く場の確保の為、美馬市手をつなぐ育成会では「就労継続支援Ｂ型」の施設をどこかに確保したいと考えています。具体的に、どんな作業をするかは、確定していませんが、新聞を利用したエコバックの作成・販売等を１候補にしています。平成 28 年度発足に向けて準備中です。

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査の結果は下記のとおりとなっている。

図表３－９２　ヒアリング調査の内容

団体名	摘要
スポーツクラブ美馬	● 平成 13 年に文部科学省の「総合型地域スポーツ事業」の研究指定があったが、この当時は啓発が中心であった。 ● 平成 16 年 3 月に旧美馬町で現在のスポーツクラブ美馬が誕生した。 ● 年会費は子ども 2,000 円、大人 3,000 円で、クラブの運営費に充てている。 ● 市内には地区ごとにスポーツクラブがあり、加えて主として川を活用した活動を展開する「AMEMBO」の計５つのスポーツクラブがある。 ● 会員は 360 名程度であり、小学生、高齢者が多い。 ● 美馬地区には専用の体育館がなく、小・中学校の体育館を間借りしている。 ● スポーツ活動以外に、ウォーキングや納涼祭等のコミュニティ活動も行っている。 ● 専用の施設がないため、学校行事や他のスポーツとの日程調整で苦慮している。 ● 冷暖房が必要な種目は美馬福祉センターを利用している。 ● 多くの人は徒歩圏の学校で活動を行っているが、近くに活動場所がなく車を利用できないことでスポーツ活動に参加できない高齢者もいると考えている。 ● スタッフはボランティアであり担い手も少ない状況である。 ● スポーツだけでなく文化活動も行っており、今後もメニューを広げていきたい。 ● 休・廃校施設の利用については、美馬地区では山間部にあり、アクセスが良くないことから使いづらい。
市民環境部 ふるさと振興課	● 校区内にそれぞれ集会所があり、行政が整備をしている。 ● 小学校に機能を集約することに関しては、トイレの洋式化やバリアフリー化の検討をしているものの、小学校を集会所として利用するのは難しいと考えている。 ● 集会所の要望としては修理が多い。町会費は会により異なるが、年 1,000～3,000 円（維持費、活動費）程度と聞いている。 ● 休廃校施設の使い道について、集会所が入るとしたら自治会よりも対象エリアが広くなるため、これまでよりも集会所が遠くなる人もいる。また、水道代・火災保険を市が負担して欲しいという意見も出てくると、他の集会所とのバランスがとりにくくなる。 ● 自治会の体制として、市からの連絡は自治会長にする。自治会長は特別公務員（非常勤）で報酬を払っている。地区の苦情も、自治会長からというルールがあり、苦情の内容は道路やごみ問題が多い。 ● 地域活性化のための地域おこし協力隊は木屋平地区以外に 3 人いる。また、集落支援員は 4 人いる。任期はどちらも 3 年であり、一定の成果は上がっていると感じている。美馬の良いところの情報発信してくれている。

団体名	摘要
山人の里運営協議会 （里帰り運動会）	● 重清北の地域は現在 120 世帯であり、多いときは 160 世帯ほどであった。 ● 重清北の里帰り運動会は、地域の方、OB、出身者、出身先生にアンケート調査を行い、その回答の中にあった活用策として始まった。これまで里帰り運動会は 5 回実施した。 ● 現在、旧重清北小学校は簡易宿泊施設と介護予防施設として利用されている。 ● 休校の連絡があり、休校に向けた準備（記念史）を考えるなかで、行政からの依頼でなく地域活性化に寄与するため跡地利用委員会を地元住民で組織した。その中で関係者や転出者に活用に向けたアンケートを実施した。同会のメンバーは学校関係者だけではなく、地域の顔役の方もいる。最後の運動会を兼ねて里帰り運動会を廃校になる前に開催した。 ● アンケートは、往復はがきで運動会の参加を兼ねて実施した。卒業生およそ 200 人と地元の人およそ 100 人に送付した。要望としては宿泊施設、介護施設に転用という意見が多かった。ほかに企業誘致、サテライトオフィスなどもあった。 ● 利用するとしたら、駐車場もあるし使いやすいと思う。行政窓口が３つあり、分かりづらいため一本化した方がよいと考えている。 ● 将来的には、跡地利用委員会の次の組織である山ん里（やまんと）という任意団体が将来的に宿泊施設の指定管理者になる予定である。外部の人間（地域づくり協力隊員）を受け入れたのは、都市との交流・人脈に発信したいという思いがあったからで、そのネットワークを活用し、事業体のようなかたちにするのが理想である。 ● 活動としては、小学校が地域の拠点であることもあり、小学校を中心として地域が動いていた。いきいきサロンは婦人会が行って料理を作ったりしている。地域のボランティアなどが環境づくりを行っている。宿泊施設が開始しても地元に開放する部分は残る。 ● 宿泊に対する需要予測、経営計画は手探りの状態にある。 ● 里帰り運動会は現在 5 年目になる。毎年 10 月に開催している。１日 100 人くらいは帰ってくると思う。
美馬市文化協会	● 廃校の活用について、現在は山間部が多く、平地の人は行きにくい。参加者は車のため、駐車場も重要である。今後平地でも廃校が見込まれており、そちらなら行きやすいと思う。 ● 文化祭が協会としてのメインのイベントであり、それぞれ講演会もある。 ● 加盟団体が 93、協賛団体が 40 あり、加盟団体は芸能、書画が多い。 ● 美馬市の文化活動は県下でも活発な方であると思う。古典的なところでは能楽の活動もある。 ● 学校施設の利用は少ない。地域の熱意があれば休校施設を文化施設として活用することはできると考える。 ● 現在の施設の使い勝手については不満や環境整備の声はない。 ● 文化祭は文化の日を中心に３日間開催している。 ● 空調、トイレ設備等の改修は必要ではあるが、公民館を利用している団体は学校施設を利用しやすいと思う。
美馬市体育協会	● 体育協会は 22 団体が所属している。主なものは野球、ソフトボール、バレー、卓球、テニス（硬式・軟式）、パークゴルフ、マレット、柔道、剣道、空手、少林寺拳法、スキー、スノーボードである。野球、ソフトボールは参加者が減少している。バレーはママさんバレー的なものが 13 チームほどあり、年 6 回ほど定期的に大会を開催している。 ● 施設環境はある程度恵まれていると思う。不満としてはバレー、卓球はうだつアリーナしか会場がないため、使用が集中し、定期的な大会がなかなか開催できないところである。 ● 大塚製薬の工場が美馬市に来るのに併せて、トレーニングセンターの要望は上がっている。宿泊施設として旧重清北小を使い、生活改善グループに食事を提供してもらうよう計画している。 ● 高齢者のグランドゴルフ、ゲートボールは、河川敷でやっているが、小学校のグランドがあれば活用も増えると思う。 ● 各地区にトレーニング器具を設置して体力づくりにできるといいが、予算的にそこまでは難しいと考えている。 ● 競技によってはスポーツ推進員が指導に当たっている。 ● スポーツを活用したまちづくりが目標である。

団体名	摘要
ふれあい館運営協議会 （多世代交流センター「初草ふれあい館」）	● 跡地利用検討協議会で平成 21 年７月に跡地利用について検討を開始した。小学校で地域を招いての行事がなくなるので、寂しくなるなという印象はあった。 ● 協議会は自治会長、市議会議員、老人会会長、婦人会会長、民生児童委員、学校評議員、前ＰＴＡ会長、前小学校長、教育長、小学校長等で構成されている。 ● 跡地利用検討協議会では、初草校区の活性化、記念誌発行、休校式等が議題であった。 ● 跡地利用検討協議会からふれあい館運営協議会に移行した。 ● 活動費の支援としては、「休校校区支援事業」という補助がある。イベント補助で年１回 10 万円が支給される。具体的には、世代間交流のためクイズを絡めたウォーキング大会を実施した。他にも、年 1 回の校区の運動会や理学療法士の健康づくり講座を開催した。 ● 施設利用・管理について、体育館は貸出をしている。運営協議会では管理棟のみ管理している。
美馬市 PTA 連合会	● 統合に対する父母の関心として、５つの学校が１つになるのは関心がある。きちんと説明してもらえれば賛成も多いと思う。 ● 重清東小学校は全児童数 90 人で町内では２番目の児童数である。会長、副会長は各地域から役員として出てきている人から代表１名が選ばれる。 ● 重清東 PTA の活動は運動会の企画、学校行事への参加、稲刈り、餅つき大会等である。集まり（準備委員会）は月１回程度である。 ● 旧重清北小学校を４家族で利用してみたが、１泊２日で楽しむことができる施設だと感じた。親子のコミュニケーションがとれるようなイベントがあればよいと思う。そのようなことに限らず、使っていない学校施設は有効に利用していくのがよい。同じ趣味のある方で集まってコミュニティができればよいと思う。 ● PTA は子供が卒業すると疎遠になってしまうので、共通のコミュニティがあれば集まる機会も増える。学校がそのような場所になればよい。 ● オフィスとして学校施設を利用することについて、需要もあると思うが、個人的な事業に貸すということについては意見が分かれると思う。 ● 保育に関するニーズは多い。そのようなスペースがあるとよい。